

丸亀市内遺跡発掘調査報告書

第 3 集

平成19年度国庫補助事業報告書

中津兵庫遺跡
柞原町字上所地区
郡家原遺跡
土器町西三丁目地区
三条中村遺跡
原田町字東三分一地区
綾歌町富熊字沖地区
山北町字原窪地区
郡家田代遺跡

2008. 3

丸亀市教育委員会

例 言

1. 本書は、丸亀市が平成19年度国庫補助事業として実施した丸亀市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 今回の丸亀市内遺跡発掘調査は、中津町字兵庫・金倉町字川西地区、柞原町字上所地区、郡家町字八幡下地区、土器町西三丁目地区、三条町字中村地区、原田町字東三分一地区、綾歌町富熊字沖地区、山北町字原窪地区、郡家町字大林上地区を対象とした。
3. 調査主体は、丸亀市教育委員会である。
4. 中津町字兵庫・金倉町字川西地区、柞原町字上所地区、土器町西三丁目地区、三条町字中村地区、山北町字原窪地区及び郡家町字大林上地区の試掘調査は丸亀市教育委員会近藤武司が、郡家町字八幡下地区、原田町字東三分一地区及び綾歌町富熊字沖地区の試掘調査は同教育委員会東信男が担当して実施した。
5. 本書に用いた遺構表示の略記号は次のとおりである。
SD・・・溝、SK・・・土坑、SP・・・ピット（柱穴）
6. 出土遺物及び実測図等の資料整理は、谷口梢、北山多佳子及び平井佑典が行った。
7. 本書の執筆は、近藤、谷口、北山及び平井が分担して行い、編集は、近藤が行った。
8. 本書の測量図の縮尺は、スケールで表示した。また、方位は世界測地系による方位(T. N.) 及び磁北(M. N.) で表示した。
9. 本書の土層断面図に記載してある「土色」は、農林水産省技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖2004年版』による。また、本文中にも一部でこの「土色」記号を使用した。
10. 本書中の一部の挿図については、丸亀市が作成した都市計画図（10,000分の1：平成18年承認番号第25号）及び旧綾歌町が作成した綾歌町全図（10,000分の1：平成13年8月）を使用した。

目次

本文目次

| | | |
|-----|-----------------------------|----|
| 第Ⅰ章 | 平成19年度丸亀市内遺跡発掘調査事業概要 | 1 |
| 第Ⅱ章 | 中津町字兵庫・金倉町字川西地区試掘調査【中津兵庫遺跡】 | 5 |
| 1. | 立地と環境 | 5 |
| 2. | 調査に至る経緯 | 5 |
| 3. | 調査の概要 | 5 |
| 4. | まとめ | 12 |
| 第Ⅲ章 | 柞原町字上所地区試掘調査 | 17 |
| 1. | 立地と環境 | 17 |
| 2. | 調査に至る経緯 | 17 |
| 3. | 調査の概要 | 20 |
| 4. | まとめ | 22 |
| 第Ⅳ章 | 郡家町字八幡下地区試掘調査【郡家原遺跡】 | 29 |
| 1. | 立地と環境 | 29 |
| 2. | 調査に至る経緯 | 29 |
| 3. | 調査の概要 | 29 |
| 4. | まとめ | 30 |
| 第Ⅴ章 | 土器町西三丁目地区試掘調査 | 35 |
| 1. | 立地と環境 | 35 |
| 2. | 調査に至る経緯 | 35 |
| 3. | 調査の概要 | 35 |
| 4. | まとめ | 38 |
| 第Ⅵ章 | 三条町字中村地区試掘調査【三条中村遺跡】 | 42 |
| 1. | 立地と環境 | 42 |
| 2. | 調査に至る経緯 | 42 |
| 3. | 調査の概要 | 42 |
| 4. | まとめ | 48 |
| 第Ⅶ章 | 原田町字東三分一地区試掘調査 | 54 |
| 1. | 立地と環境 | 54 |
| 2. | 調査に至る経緯 | 54 |
| 3. | 調査の概要 | 57 |
| 4. | まとめ | 58 |

| | |
|---------------------------|-----|
| 第VIII章 綾歌町富熊字沖地区試掘調査 | 6 2 |
| 1. 立地と環境 | 6 2 |
| 2. 調査に至る経緯 | 6 2 |
| 3. 調査の概要 | 6 2 |
| 4. まとめ | 6 4 |
| 第IX章 山北町字原窪地区試掘調査 | 6 7 |
| 1. 立地と環境 | 6 7 |
| 2. 調査に至る経緯 | 6 7 |
| 3. 調査の概要 | 7 0 |
| 4. まとめ | 7 2 |
| 第X章 郡家町字大林上地区試掘調査【郡家田代遺跡】 | 7 9 |
| 1. 立地と環境 | 7 9 |
| 2. 調査に至る経緯 | 7 9 |
| 3. 調査の概要 | 8 1 |
| 4. まとめ | 8 6 |
| 第XI章 まとめ | 9 4 |

挿図目次

| | |
|-------------------------|----|
| 第1図 平成19年度丸亀市内遺跡発掘調査対象地 | 4 |
| 中津町字兵庫地区【中津兵庫遺跡】 | |
| 第2図 調査地位置図 | 5 |
| 第3図 トレンチ配置図 | 6 |
| 第4図 トレンチ平面・土層断面図 (1) | 9 |
| 第5図 トレンチ平面・土層断面図 (2) | 10 |
| 第6図 トレンチ平面・土層断面図 (3) | 11 |
| 第7図 出土遺物実測図 | 12 |
| 柞原町字上所地区 | |
| 第8図 調査地位置図 | 17 |
| 第9図 トレンチ配置図 | 18 |
| 第10図 トレンチ平面・土層断面図 | 19 |
| 第11図 出土遺物実測図 | 22 |
| 郡家町字八幡下地区【郡家原遺跡】 | |
| 第12図 調査地位置図 | 29 |
| 第13図 出土遺物実測図 | 30 |
| 第14図 トレンチ配置図 | 31 |
| 第15図 トレンチ土層断面図 | 32 |
| 土器町西三丁目地区 | |
| 第16図 調査地位置図 | 35 |
| 第17図 トレンチ配置図 | 36 |
| 第18図 トレンチ土層断面図 | 37 |
| 三条町字中村地区【三条中村遺跡】 | |
| 第19図 調査地位置図 | 42 |
| 第20図 トレンチ配置図 | 43 |
| 第21図 トレンチ平面・土層断面図 (1) | 45 |
| 第22図 トレンチ平面・土層断面図 (2) | 46 |
| 第23図 出土遺物実測図 | 47 |
| 原田町字東三分一地区 | |
| 第24図 調査地位置図 | 54 |
| 第25図 トレンチ配置図 | 55 |
| 第26図 トレンチ土層断面図 | 56 |
| 第27図 出土遺物実測図 | 57 |

綾歌町富熊字沖地区

第28図 調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第29図 トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
第30図 トレンチ土層断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
第31図 出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

山北町字原窪地区

第32図 調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
第33図 トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第34図 トレンチ土層断面図 (1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第35図 トレンチ土層断面図 (2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

郡家町字大林上地区【郡家田代遺跡】

第36図 調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
第37図 トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第38図 出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
第39図 トレンチ土層断面図 (1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
第40図 トレンチ土層断面図 (2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85

表目次

第1表 中津町字兵庫・金倉町字川西地区試掘調査 トレンチ概要・・・・・・・・ 8
第2表 柞原町字上所地区試掘調査 トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第3表 郡家町字八幡下地区試掘調査 トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
第4表 土器町西三丁目地区試掘調査 トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第5表 三条町字中村地区試掘調査 トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第6表 原田町字東三分一地区試掘調査 トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
第7表 綾歌町富熊字沖地区試掘調査 トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
第8表 山北町字原窪地区試掘調査 トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第9表 郡家町字大林上地区試掘調査 トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
第10表 調査に関する処理事務総括表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96

写真図版目次

| | | |
|-------|-----------------------------------|-----|
| 図版 1 | 中津町字兵庫・金倉町字川西地区試掘調査 (1) | 1 3 |
| 図版 2 | 中津町字兵庫・金倉町字川西地区試掘調査 (2) | 1 4 |
| 図版 3 | 中津町字兵庫・金倉町字川西地区試掘調査 (3) | 1 5 |
| 図版 4 | 中津町字兵庫・金倉町字川西地区試掘調査 (4) | 1 6 |
| 図版 5 | 柞原町字上所地区試掘調査 (1) | 2 3 |
| 図版 6 | 柞原町字上所地区試掘調査 (2) | 2 4 |
| 図版 7 | 柞原町字上所地区試掘調査 (3) | 2 5 |
| 図版 8 | 柞原町字上所地区試掘調査 (4) | 2 6 |
| 図版 9 | 柞原町字上所地区試掘調査 (5) | 2 7 |
| 図版 10 | 柞原町字上所地区試掘調査 (6) | 2 8 |
| 図版 11 | 郡家町字八幡下地区試掘調査 (1) | 3 3 |
| 図版 12 | 郡家町字八幡下地区試掘調査 (2) | 3 4 |
| 図版 13 | 土器町西三丁目地区試掘調査 (1) | 3 9 |
| 図版 14 | 土器町西三丁目地区試掘調査 (2) | 4 0 |
| 図版 15 | 土器町西三丁目地区試掘調査 (3) | 4 1 |
| 図版 16 | 三条町字中村地区試掘調査 (1) | 4 9 |
| 図版 17 | 三条町字中村地区試掘調査 (2) | 5 0 |
| 図版 18 | 三条町字中村地区試掘調査 (3) | 5 1 |
| 図版 19 | 三条町字中村地区試掘調査 (4) | 5 2 |
| 図版 20 | 三条町字中村地区試掘調査 (5) | 5 3 |
| 図版 21 | 原田町字東三分一地区試掘調査 (1) | 5 9 |
| 図版 22 | 原田町字東三分一地区試掘調査 (2) | 6 0 |
| 図版 23 | 原田町字東三分一地区試掘調査 (3) | 6 1 |
| 図版 24 | 綾歌町富熊字沖地区試掘調査 (1) | 6 6 |
| 図版 25 | 綾歌町富熊字沖地区試掘調査 (2) | 6 7 |
| 図版 26 | 山北町字原窪地区試掘調査 (1) | 7 3 |
| 図版 27 | 山北町字原窪地区試掘調査 (2) | 7 4 |
| 図版 28 | 山北町字原窪地区試掘調査 (3) | 7 5 |
| 図版 29 | 山北町字原窪地区試掘調査 (4) | 7 6 |
| 図版 30 | 山北町字原窪地区試掘調査 (5) | 7 7 |
| 図版 31 | 山北町字原窪地区試掘調査 (6) | 7 8 |

| | | |
|--------|-------------------|-----|
| 図版 3 2 | 郡家町字大林上地区試掘調査 (1) | 8 7 |
| 図版 3 3 | 郡家町字大林上地区試掘調査 (2) | 8 8 |
| 図版 3 4 | 郡家町字大林上地区試掘調査 (3) | 8 9 |
| 図版 3 5 | 郡家町字大林上地区試掘調査 (4) | 9 0 |
| 図版 3 6 | 郡家町字大林上地区試掘調査 (5) | 9 1 |
| 図版 3 7 | 郡家町字大林上地区試掘調査 (6) | 9 2 |
| 図版 3 8 | 郡家町字大林上地区試掘調査 (7) | 9 3 |

第 I 章 平成 19 年度丸亀市内遺跡発掘調査事業概要

丸亀市は、香川県の中央よりやや西の海岸部に位置する。東は坂出市・綾歌郡宇多津町・同郡綾川町、南は仲多度郡琴平町・同郡まんのう町、西は善通寺市・仲多度郡多度津町、北には瀬戸内海が面し、岡山県倉敷市が対面している。

平成の大合併に伴い、平成 17 年 3 月 22 日に旧丸亀市、旧綾歌町、旧飯山町が合併し面積は約 112km²・人口約 11 万人になっている。

その新しい丸亀市の所在する丸亀平野は、県下最高峰の竜王山（1059.9m）と第二の高峰大川山（1042.9m）の山間に源を発する土器川を主に、東から大東川、土器川、金倉川、弘田川によって形成された緩扇状地・氾濫原と沖積平野からなる県下最大規模の平野である。

近年、四国横断自動車道の建設、国道バイパス建設工事などの公共開発事業に先立つ丸亀平野各地での発掘調査が積極的に行われた結果、徐々にではあるが、遺跡の所在及び内容についてのデータが整いつつあり、その結果、遺跡の保護や啓蒙普及に関する事業が進みつつある。

このような背景に関連し、丸亀市内の各地で民間や個人による大小規模の開発が活発で、その対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地内やそれに近接する場所である場合も多い。丸亀市では、埋蔵文化財の保護措置を図るための試掘及び確認調査を実施し、遺跡の所在の有無及びその内容について確認するため、旧丸亀市では平成 4 年度から、旧綾歌町では平成 8 年度から継続的に国庫及び県費補助金をあてて調査を実施してきている。今年度についても、国庫補助金をあて同事業を継続して実施することとした。

国庫補助金申請については、平成 19 年 4 月 21 日付け 19 文文第 12 号を提出し、平成 19 年 6 月 1 日付け 19 教生文第 6191 号で交付決定を受けた。

今年度については、中津町字兵庫・金倉町字川西地区、柞原町字上所地区、郡家町字八幡下地区、土器町西三丁目地区、三条町字中村地区、原田町字東三分一地区、綾歌町富熊字沖地区、山北町字原窪地区、郡家町字大林上地区で遺跡の所在の有無を確認するための試掘調査を実施した。

中津町字兵庫・金倉町字川西地区では、工場建設に先立つ試掘調査を実施した。東の金倉川を挟んだ対岸一帯には周知の埋蔵文化財包蔵地である『道下遺跡（弥生～近世：包含地）』が広がっていることや、古代条里型地割の存在が古くから知られており、関連する遺跡の展開が考えられることから試掘調査を実施する必要があると判断した。

柞原町字上所地区では、商業施設の建設が計画されたことに伴う試掘調査を実施した。当該地北東域には、『柞原町西村遺跡（古代：包含地）』が隣接していたり、南西域には『田村遺跡（弥生～古代：包含地）』が所在する。さらに東方の程近い位置には、『柞原土居構城跡（中世：城館）』の所在が知られており、それらに関連する遺跡の展開が考えられるこ

とから、試掘調査を実施する必要があると判断する必要があると判断した。

郡家町字八幡下地区では、共同住宅建設の事業計画に伴う試掘調査を実施した、北側に近接する『郡家原遺跡』が当該地まで展開する可能性が高いものと考えられ、試掘調査を実施必要があると判断した。

土器町西三丁目地区では、分譲住宅建設用地開発に伴い試掘調査を実施した。中河川である清水川の右岸域に所在する当該地の対岸側には『土器町 C 遺跡（古墳時代：包含地）』や『山北 1 号墳（中世：墓）』が知られているが、該当地の直近では調査事例が無かったことから、周辺の遺跡分布状況や地理的状況から推測して試掘調査を実施することとなった。

三条町字中村地区では、分譲住宅建設用地開発に伴うものであるが、調査対象地の直近では調査事例が無く、半径 500m 以内に『中村新池遺跡（中世：包含地）』、『宮池遺跡（古代：包含地）』、高松自動車道用地では、『郡家原遺跡（弥生～古代：集落）』、『三条黒島遺跡（旧石器～弥生：包含地）』、『三条番ノ原遺跡（弥生～中世：包含地）』など多くの遺跡が所在しており、遺跡分布状況や地理的状況から考えると、十分遺跡の所在が推測されることから、試掘調査を実施する必要があると判断した。

原田町字東三分一地区では、分譲住宅開発の事業計画に伴い試掘調査を実施した。調査対象地の北側には、丸亀市を代表する『中の池遺跡（弥生：包含地）』の存在があり、南側には、広範囲な微高地上に広がる善通寺原田町の『五条遺跡（弥生時代：大規模集落）』の存在が明らかで、当該地の周辺にも弥生時代の集落が展開する可能性が考えられるため行うこととなった。

綾歌町富熊字沖地区では、電気通信施設（携帯・自動車電話）の建設計画に伴い試掘調査を実施した。調査対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地『行末西遺跡（弥生～古墳：集落）』の北端に隣接しており、検討した結果、関連する遺跡の展開が予想されるため、試掘調査を実施する必要があると判断した。

山北町字原窪地区では、商業施設の建設計画に伴い試掘調査を実施した。調査対象地南に田村池があり、その池南東半部に『田村池遺跡（弥生～古代：包含地）』が存在しており、そこから北東方向にやや安定した微高地が延びている。その同一線上に当該地があることから関連する遺跡が展開している可能性が考えられることから試掘調査が必要であると判断した。

郡家町字大林上地区では、店舗建設計画に伴い試掘調査を行った。調査対象地に隣接する区域では、これまでに調査実績がないことから遺跡の分布状況は不明であったが、周辺の『郡家田代遺跡（旧石器～古代：集落）』、『川西北原遺跡（中世～近世：包含地）』、『領家遺跡（古墳：包含地）』の所在が明らかで、この地域にも遺跡の所在が十分に期待できることから、事前調査を実施することとした。

これら 9 件の調査を実施した結果、中津町字兵庫・金倉町字川西地区で『中津兵庫遺跡』、三条町字中村地区で『三条中村遺跡』の 2 遺跡を新たに発見することができた。そして、郡家町字八幡下地区で『郡家原遺跡』、郡家町字大林上地区で『郡家田代遺跡』の 2 遺跡を

追加登録することとなった。

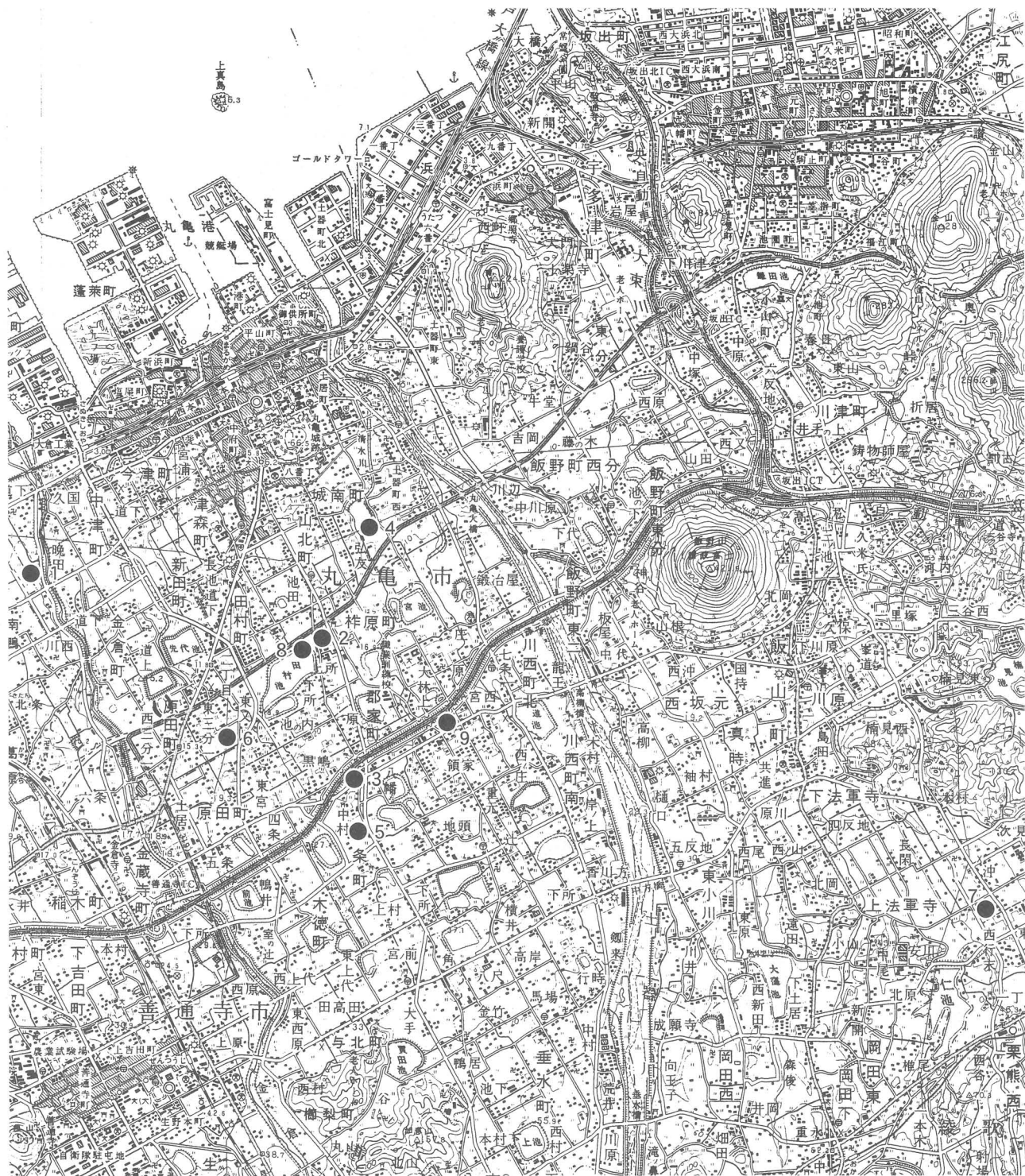
その他の地区では、埋蔵文化財の所在が確認できなかったことや、検出内容が極めて希薄であったこと等から遺跡としての取り扱いは不要であるとの結論に至った。

これらの調査によって得られた資料に基づき、それぞれの開発事業者と埋蔵文化財の保存について協議し、適切な保護を図ることができた。

また、今後計画される開発などにもこれらの成果を反映し、文化財の保護に役立てたい。

以上、丸亀市内で計画された9件の事業に伴う試掘調査を実施した。

平成19年度の丸亀市内遺跡発掘調査事業は、平成19年4月1日から開始し、平成20年3月31日に終了した。



S = 1:60,000

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 中津町字兵庫・金倉町字川西地区(中津兵庫遺跡) | 6. 原田町字東三分一地区 |
| 2. 柞原町字上所地 | 7. 綾歌町富熊字沖地区 |
| 3. 郡家町字八幡下地区(郡家原遺跡) | 8. 山北町字原窪地区 |
| 4. 土器町西三丁目地区 | 9. 郡家町字大林上地区(郡家田代遺跡) |
| 5. 三条町字中村地区(三条中村遺跡) | |

第1図 平成19年度丸亀市内遺跡発掘調査対象地

中津町字兵庫・金倉町字川西地区
【中津兵庫遺跡】

第Ⅱ章 中津町字兵庫・金倉町字川西地区試掘調査

【中津兵庫遺跡】

調査対象地 中津町字兵庫・金倉町字川西 地内（全42筆）
調査期間 平成19年5月15日～5月18日
調査面積 438㎡（トレンチ掘削面積）

1. 立地と環境

当該地は、丸亀平野を形成する金倉川の下流左岸域に広がり、仲多度郡多度津町との境界を共にする丸亀市最西端に位置する低丘陵地帯である。

調査地のすぐ東側には弥生時代～近世にかけての包含地である『道下遺跡』の存在が確認されている。

古代に入り、律令国家体制により行われた条里型地割の存在が古くから知られている地域でもある。

そして、金倉川を挟んだ東側には中世城館の『中津城跡』が立地している。



第2図 調査地位置図

2. 調査に至る経緯

周知の埋蔵文化財包蔵地外で計画された工場建設に先立ち、埋蔵文化財の包蔵状況を確認するために試掘調査を行うことを4月24日に決定し、5月15日から調査を開始した。

今回申請された地区では、建物位置などの計画が未定のため最大限の範囲を調査対象とし、計15ヶ所のトレンチを設定した。掘削は重機により行った。調査の結果を6月5日に香川県教育委員会に提出し、協議した結果、調査区域中央部及び南西部が『中津兵庫遺跡』として登録された。

3. 調査の概要

ほぼ調査地全域で明黄褐色系のシルト質粘細砂のベース面を確認し、溝・土坑などの遺構も検出した。以下、特徴的なトレンチについて記述する。

【1 トレンチ】

耕作土を取り除くと整地土が広がり、その下から明黄褐色シルト質細砂のベースと考え



第3図 トレンチ配置図

られる層が現れる。確認のため、トレンチ西端で深く掘り下げてみたが、砂質系や粘質系の違いが微妙に感じられるものの別層とは考え難く、ベース1層として捉えることが適当である。

トレンチ西端から約5mの地点で暗灰褐色粘質土を埋土に持つ溝を検出した。幅約2.5m、深さ約1.5mである。溝からは土師器片が出土しているが、小片で明確な時代を判断することはできないが、古代より以前のもものと推測できる。耕作土からは弥生土器が出土している。

【2トレンチ】

耕作土の下には整地土があり、次にベース面が広がる。トレンチ南端から1mの地点で淡灰褐色粘質細砂の埋土を持つ溝を検出した。幅約0.6m、深さ約0.2mで南西～北東にかけて流れていたものと考えられる。溝からの出土遺物はない。トレンチ西端を基点に4m地点から東にかけて土採痕跡が続いている。第7図-1土師器の鍋の口縁部片が1点出土している。内面には横方向の丁寧な刷毛目調整を行う。

【3トレンチ】

耕作土下には、整地土が続くが、その下層でベース面が確認できた。その面から掘り込まれている溝3条、土坑2基を検出した。トレンチ中央付近において、土採痕跡が確認でき、その埋め戻した埋土から古代～中世のもものと推測できる土師器片・須恵器片が出土している。第7図-2は須恵器の坏である。底径約8.6cmのヘラ切りが見られ、8世紀後半の所産と考えられる。第7図-3は土鍋の脚部片である。第7図-4は巴文様をもつ小型の軒丸瓦である。珠紋数は22個、周縁の彫りも深く、形成も丁寧である。室町時代のものと考えられる。

【4トレンチ】

1トレンチで検出した溝の延長と考えられる遺構が、トレンチ西端において確認できた。埋土状況も同じく、幅・深さも同様の形態である。出土遺物はない。

【5トレンチ】

耕作土、整地土を取り除くと、トレンチ中央付近において1・4トレンチで検出した溝と埋土状況が同様な溝を検出したが、規模や方向が1・4トレンチの溝とは異なり、一連の溝とは考えにくい。出土遺物はない。

【6トレンチ】

耕作土、整地土の下からベース面が現れ、トレンチ西から9.7m地点で幅0.8mの溝を検出した。溝の方向は南西～北東に流れ、埋土は黄灰色粘質土である。

【7トレンチ】

整地土直下であるベース面から、トレンチ東端付近で5トレンチで検出した溝の延長のものと考えられる溝を検出した。埋土や規模も同様であり、土師器が出土している。しかし、詳細な時代については不明である。

【9トレンチ】

整地土の下のベース面から、トレンチ西端において、5・7トレンチと同様の溝を検出した。これらは、同一の溝であると考えられる。耕作土から磁器片が出土している。

【12トレンチ】

今までの調査区では耕作土の下から整地土が確認されていたが、12トレンチでは灰黄色シルト質細砂の包含層を確認した。そこからは土師器片が比較的多く出土している。このトレンチでは、遺構の検出はなかった。

【13トレンチ】

トレンチ西端において土坑2基を検出した。埋土は黄灰色シルト質細砂であり、直径0.15mほどである。耕作土から下は整地土がなく、すぐにベース層が広がっている。

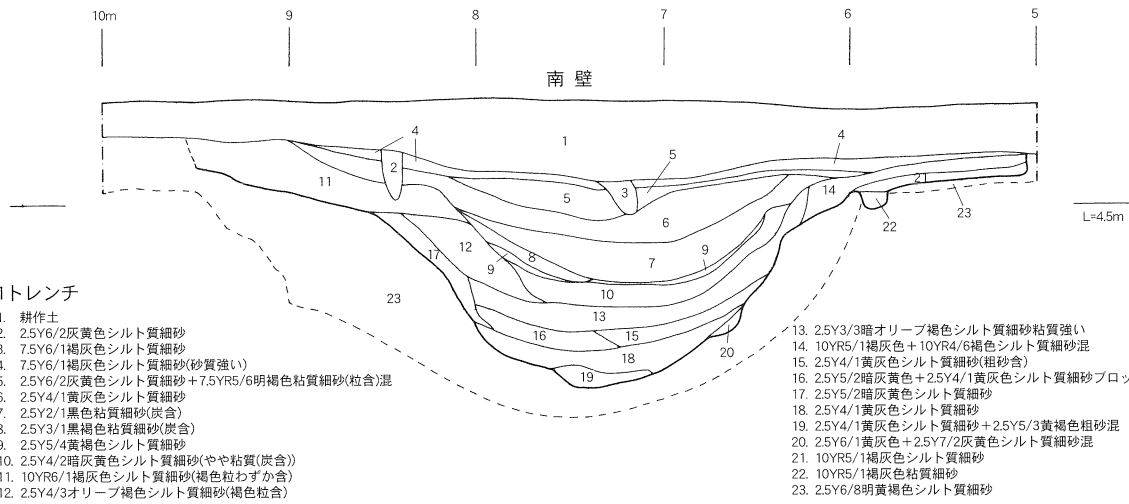
【15トレンチ】

1トレンチと4トレンチで検出した溝の関係についての詳細な情報を得るために、1トレンチの北側に調査区を設定した。耕作土の下には整地土が敷かれ、その下からは1・4トレンチの中間に位置すると考えられる溝が検出できた。あと土坑4基も検出した。出土遺物はない。

| トレンチ名 | 延長 (m) | 主な時代 | 主な遺構 | 出土遺物等 |
|--------|--------|---------|----------|--------------|
| 1トレンチ | 27.0 | 弥生時代 | 溝2条、土坑3基 | 弥生土器 |
| 2トレンチ | 25.5 | 中世以降 | 溝1条 | 土師器片、陶器片 |
| 3トレンチ | 33.0 | 古代・中世以降 | 溝3条、土坑2基 | 土師器片、須恵器片、巴瓦 |
| 4トレンチ | 38.0 | 不明 | 溝1条 | 無し |
| 5トレンチ | 32.5 | 不明 | 溝1条 | 無し |
| 6トレンチ | 22.5 | 不明 | 溝1条 | 無し |
| 7トレンチ | 52.0 | 古代・中世 | 溝1条 | 土師器片 |
| 8トレンチ | 68.0 | 不明 | 無し | 土師器片、磁器片 |
| 9トレンチ | 23.5 | 近世以降 | 溝1条 | 磁器片 |
| 10トレンチ | 32.5 | 不明 | 無し | 無し |
| 11トレンチ | 24.0 | 不明 | 無し | 無し |
| 12トレンチ | 14.5 | 不明 | 無し | 無し |
| 13トレンチ | 25.5 | 不明 | 土坑2基 | 土師器片、サヌカイト片 |
| 14トレンチ | 6.0 | 不明 | 無し | 土師器片 |
| 15トレンチ | 13.5 | 不明 | 溝2条、土坑4基 | 無し |

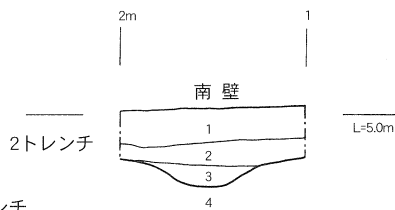
第1表 中津町字兵庫・金倉町字川西地区試掘調査 トレンチ概要

1トレンチ



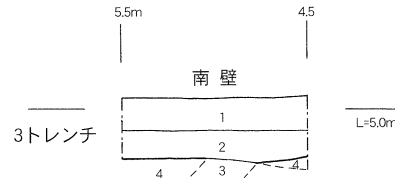
1トレンチ

1. 耕作土
2. 2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂
3. 7.5Y6/1褐灰色シルト質細砂
4. 7.5Y6/1褐灰色シルト質細砂(砂質強い)
5. 2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂+7.5YR5/6明褐色粘質細砂(粒含)
6. 2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂
7. 2.5Y2/1黒色粘質細砂(炭含)
8. 2.5Y3/1黒褐色粘質細砂(炭含)
9. 2.5Y5/4黄褐色シルト質細砂
10. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質細砂(やや粘質(炭含))
11. 10YR6/1褐灰色シルト質細砂(褐色粒わずか含)
12. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト質細砂(褐色粒含)
13. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト質細砂粘質強い
14. 10YR5/1褐灰色+10YR4/6褐色シルト質細砂混
15. 2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂(粗砂含)
16. 2.5Y5/2暗灰黄色+2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂ブロック状混
17. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質細砂
18. 2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂
19. 2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂+2.5Y5/3黄褐色粗砂混
20. 2.5Y6/1黄灰色+2.5Y7/2灰黄色シルト質細砂混
21. 10YR5/1褐灰色シルト質細砂
22. 10YR5/1褐灰色粘質細砂
23. 2.5Y6/8明黄褐色シルト質細砂



2トレンチ

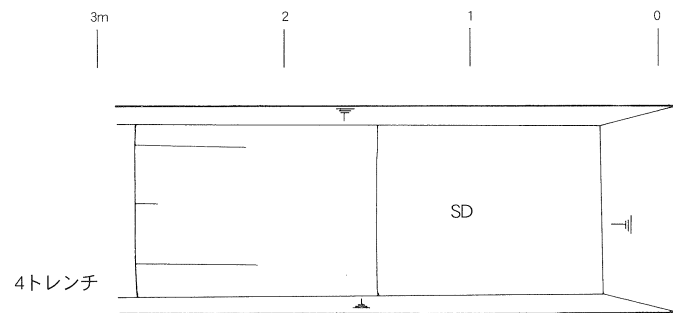
1. 耕作土
2. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質細砂
3. 5Y5/2灰オリーブ色粘質細砂
4. 10YR5/6黄褐色粘質細砂



3トレンチ

3トレンチ

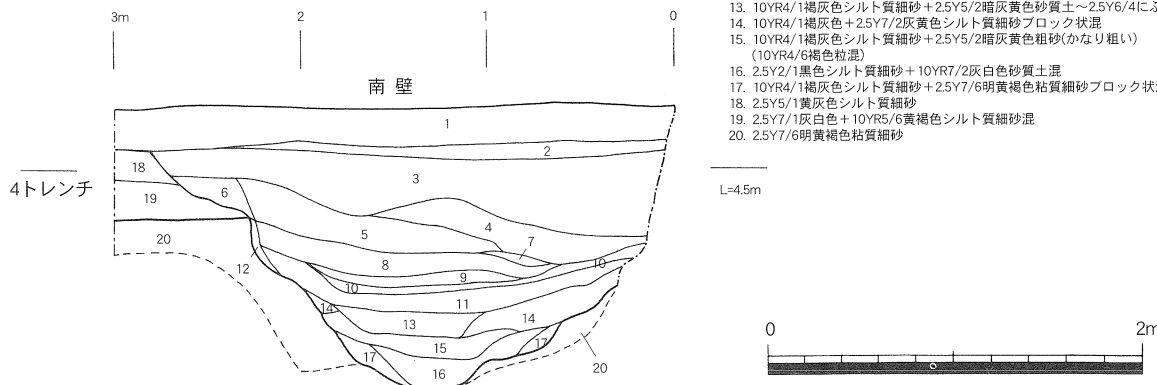
1. 耕作土
2. 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂(褐色粒多含)
3. 2.5Y7/1灰白色シルト質細砂(炭少含)
4. 10YR6/8明黄褐色粘質細砂



4トレンチ

4トレンチ

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂(粘質強い)(10YR4/6褐色粒混)
4. 2.5Y3/1黒褐色粘質(炭含)
5. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/6褐色粒多混)
6. 2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂
7. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/6褐色粒多混)(2.5Y6/4にぶい黄色砂質土混)
8. 10YR3/3暗褐色シルト質細砂(粘質強い(炭わずか含))
9. 10YR3/3暗褐色シルト質細砂(粘質強い)+2.5Y6/6明黄褐色砂質土混(炭わずか含)
10. 10YR3/3暗褐色シルト質細砂(炭含)
11. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂+2.5Y5/2暗灰黄色砂質土混
12. 2.5Y5/3黄褐色シルト質細砂(やや砂質強い)
13. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂+2.5Y5/2暗灰黄色砂質土~2.5Y6/4にぶい黄色粗砂混
14. 10YR4/1褐灰色+2.5Y7/2灰黄色シルト質細砂ブロック状混
15. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂+2.5Y5/2暗灰黄色粗砂(かなり粗い)(10YR4/6褐色粒混)
16. 2.5Y2/1黒色シルト質細砂+10YR7/2灰白色砂質土混
17. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂+2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂ブロック状混
18. 2.5Y5/1黄灰色シルト質細砂
19. 2.5Y7/1灰白色+10YR5/6黄褐色シルト質細砂混
20. 2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂

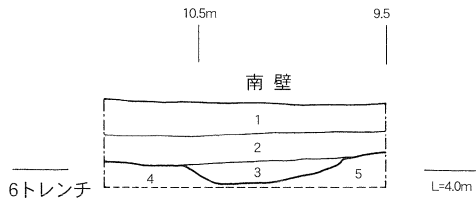


4トレンチ

L=4.5m

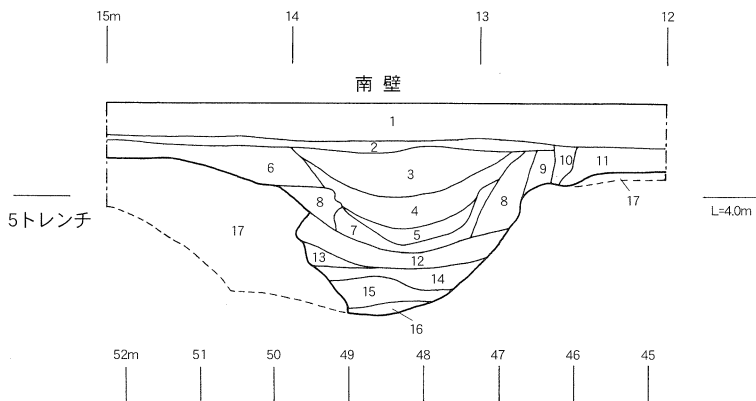


第4図 トレンチ平面・土層断面図(1)



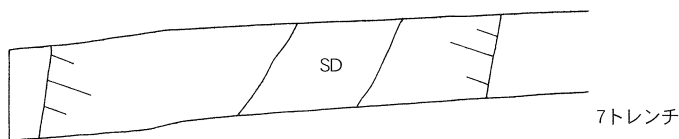
6トレンチ

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y4/1黄灰色粘質土+2.5Y5/6黄褐色粘質細砂ブロック状混(Mn含)
4. 2.5Y5/6黄褐色粘質細砂(Mn含)



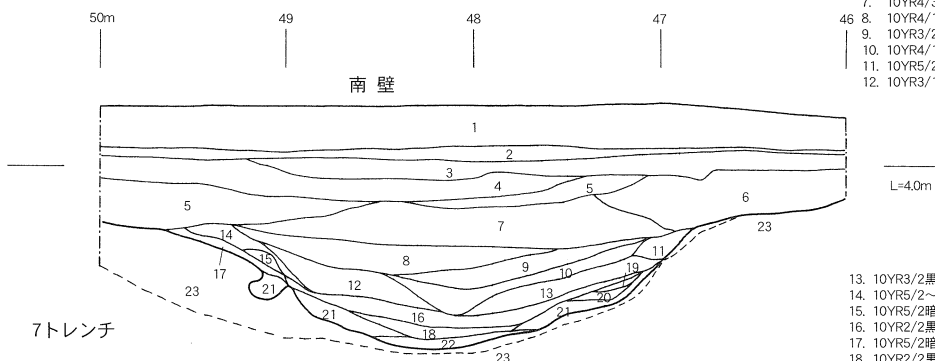
5トレンチ

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂(粘質強い)(10YR4/6褐色粒混)
4. 2.5Y3/1黒褐色粘質土(炭含)
5. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/6褐色粒多混)
6. 2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂
7. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/6褐色粒混)+2.5Y6/4にぶい黄色砂質土混
8. 10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂(Mn含)
9. 2.5Y5/1黄灰色シルト質細砂
10. 2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂
11. 2.5Y5/1黄灰色シルト質細砂
12. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂+2.5Y5/2暗灰黄色砂質土混
13. 10YR3/1黒褐色粘質土
14. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂+2.5Y5/2暗灰黄色粗砂(かなり粗い)(10YR4/6褐色粒混)
15. 2.5Y2/1黒色シルト質細砂+10YR7/2灰白色砂質土混
16. 2.5Y6/4にぶい黄色粗砂+10YR4/1褐灰色シルト質細砂わずかに混
17. 2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂

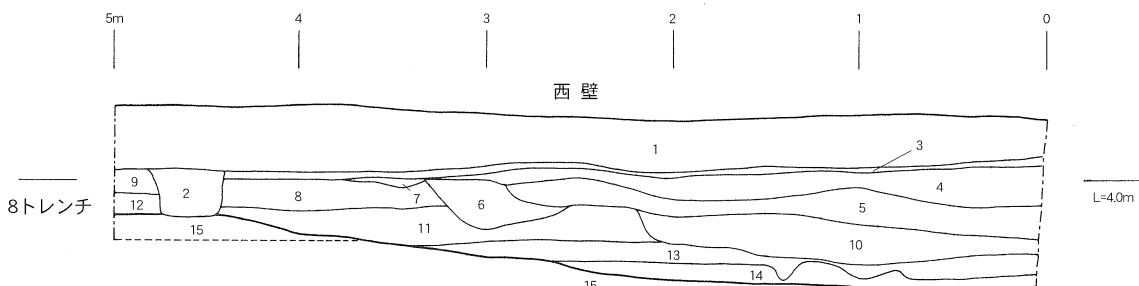


7トレンチ

1. 耕作土
2. 床土
3. 攪乱
4. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂
5. 10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/6褐色粒わずか混)
6. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂(10YR4/6褐色粒少混)
7. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト質細砂(10YR4/6褐色粒多混)
8. 10YR4/1褐灰色~3/3暗褐色シルト質細砂(粘質強い)(炭含)
9. 10YR3/2黒褐色シルト質細砂(粘質強い)
10. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂(粘質強い)
11. 10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂(10YR4/6褐色粒混)
12. 10YR3/1黒褐色粘質シルト(炭含)



13. 10YR3/2黒褐色粘質シルト(炭わずか含)
14. 10YR5/2~4/2暗灰黄色シルト質細砂(炭少含)
15. 10YR5/2暗灰黄色シルト質細砂(10YR4/6褐色粒わずか混)
16. 10YR2/2黒褐色粘質シルト(炭多含)
17. 10YR5/2暗灰黄色シルト質細砂+2.5Y5/6黄褐色粘質細砂ブロック状混
18. 10YR2/2黒褐色粘質シルト
19. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂+2.5Y5/6黄褐色粘質細砂ブロック状混
20. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂+2.5Y5/6黄褐色粘質細砂ブロック状混(炭含)
21. 2.5Y5/6黄褐色粘質細砂+2.5Y2/1黒色シルト質細砂混
22. 2.5Y5/6黄褐色粘質細砂+2.5Y2/1黒色シルト質細砂混(φ1~2mm砂粒含)
23. 2.5Y5/6黄褐色粘質細砂



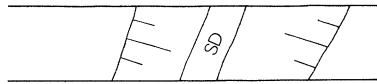
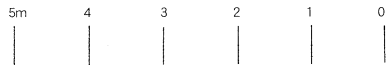
8トレンチ

1. 耕作土
2. 攪乱
3. 床土
4. 礫混10YR7/2にぶい黄褐色シルト質細砂+10YR5/6黄褐色粗砂混(φ2cm以下わずか含)
5. 礫混2.5Y5/2暗灰黄色細砂(φ3cm以下わずか含)
6. 2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂(Mnわずか含)
7. 礫混2.5Y6/2灰黄色細砂(φ10cm以下含)
8. 2.5Y5/1黄灰色シルト質細砂(やや粘質強い)
9. 2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂(2.5Y6/6明黄褐色粒混)(Mn含)
10. 2.5Y6/3にぶい黄色細砂+2.5Y5/6黄褐色シルト質細砂マーブル状混
11. 2.5Y4/1黄灰色シルト質細砂(粘質強い)
12. 2.5Y6/3にぶい黄色シルト質細砂(2.5Y6/6明黄褐色粒混)
13. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト質細砂(粘質強い)
14. 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂
15. 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂(2.5Y6/6明黄褐色粒混)+2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト質細砂(2.5Y6/6明黄褐色粒混)混



(※7トレンチ平面図は S = 1 : 100)

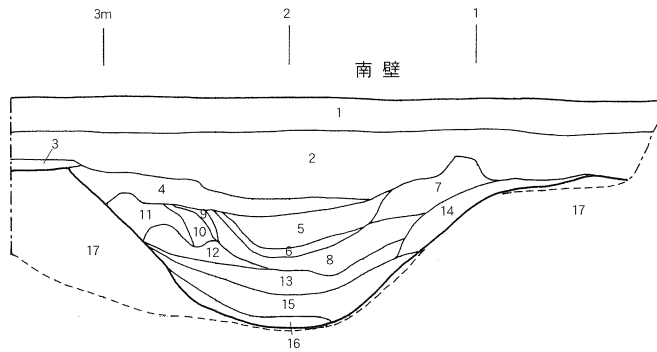
第5図 トレンチ平面・土層断面図(2)



9トレンチ

9トレンチ

1. 耕作土
2. 攪乱(整地土)
3. 床土
4. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂(Mn含)
5. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂(粘質強い)(Mn少含)
6. 10YR4/1褐灰色~3/3暗オリーブ褐色シルト質細砂(粘質強い)(灰含)
7. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂(10YR4/6褐色粒混)
8. 10YR3/2黒褐色シルト質細砂(粘質強い)
9. 10YR3/2黒褐色粘質シルト(Mn含)
10. 10YR3/2黒褐色シルト質細砂(粘質強い)(Mn含)
11. 2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂 + 10YR3/2黒褐色粘質シルトブロック状混
12. 10YR3/1黒褐色粘質シルト(炭わずか含)
13. 10YR3/2黒褐色粘質シルト(炭わずか含)
14. 2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂 + 10YR2/2黒褐色粘質シルトブロック状わずか混
15. 10YR2/2黒褐色粘質シルト(炭多含)
16. 2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂 + 10YR2/2黒褐色粘質シルトブロック状混(炭多含)
17. 2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂



南壁

9トレンチ

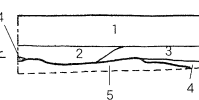
L=4.0m

12トレンチ

1. 耕作土
2. 2.5Y6/2灰黄色シルト質極細砂
3. 2.5Y5/1黄灰色シルト質細砂(2.5Y5/6黄褐色粒多混)(Mn含)
4. 5Y6/1灰色シルト質細砂(粘質強い)+2.5Y6/3にふい黄色シルト質細砂 + 10YR4/6褐色シルト質細砂ブロック状に混(Mn含)
5. 2.5Y6/3にふい黄色シルト質細砂 + 10YR4/6褐色シルト質細砂ブロック状混(Mn含)



南壁

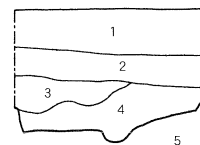


10トレンチ

L=4.5m



西壁

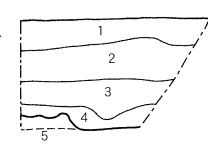


11トレンチ

L=4.0m



南壁



12トレンチ

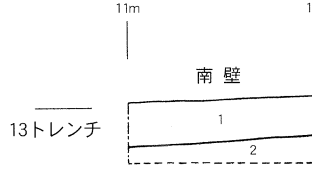
L=3.0m

10トレンチ

1. 耕作土
2. 攪乱(整地土)
3. 2.5Y7/2灰黄色粘質細砂 + 10YR4/6褐色粘質細砂ブロック状混
4. 床土
5. 10YR6/6明黄褐色粘質細砂 + 2.5Y7/2灰黄色シルト質細砂ブロック状混

11トレンチ

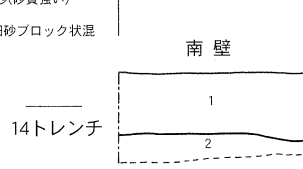
1. 耕作土
2. 10YR6/2灰褐色シルト質細砂
3. 2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂(粘質強い)
4. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂(粘質強い)
5. 10YR6/6明黄褐色粘質細砂 + 2.5Y7/2灰黄色シルト質細砂ブロック状混



南壁

13トレンチ

L=3.0m



南壁

14トレンチ

L=4.0m

13トレンチ

1. 耕作土
2. 2.5Y6/3にふい黄色シルト質細砂 + 10YR4/6褐色シルト質細砂ブロック状混(Mn含)

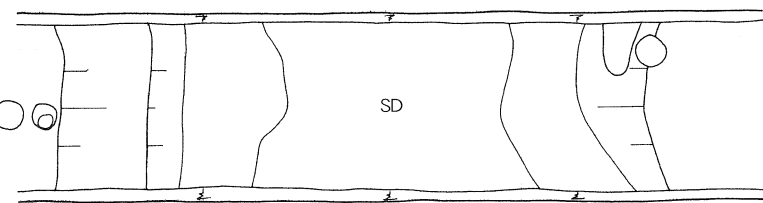
14トレンチ

1. 耕作土
2. 2.5Y6/3にふい黄色シルト質細砂 + 10YR4/6褐色シルト質細砂ブロック状混(Mn含)



15トレンチ

1. 耕作土
2. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/6黄褐色粒多混)
3. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/6黄褐色粒混)
4. 2.5Y5/1黄灰色シルト質細砂(粘質強い)(2.5Y5/6黄褐色粒混)
5. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/6黄褐色粒少混)
6. 10YR3/3暗褐色粘質シルト(2.5Y5/6黄褐色粒少混)
7. 2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂(2.5Y5/6黄褐色粒少混)
8. 2.5Y7/6明黄褐色シルト質細砂(2.5Y5/6黄褐色粒多混)

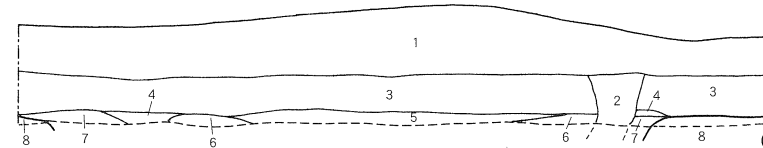


15トレンチ



15トレンチ

L=5.0m



(※9トレンチ平面図は S = 1 : 100)

第6図 トレンチ平面・土層断面図(3)

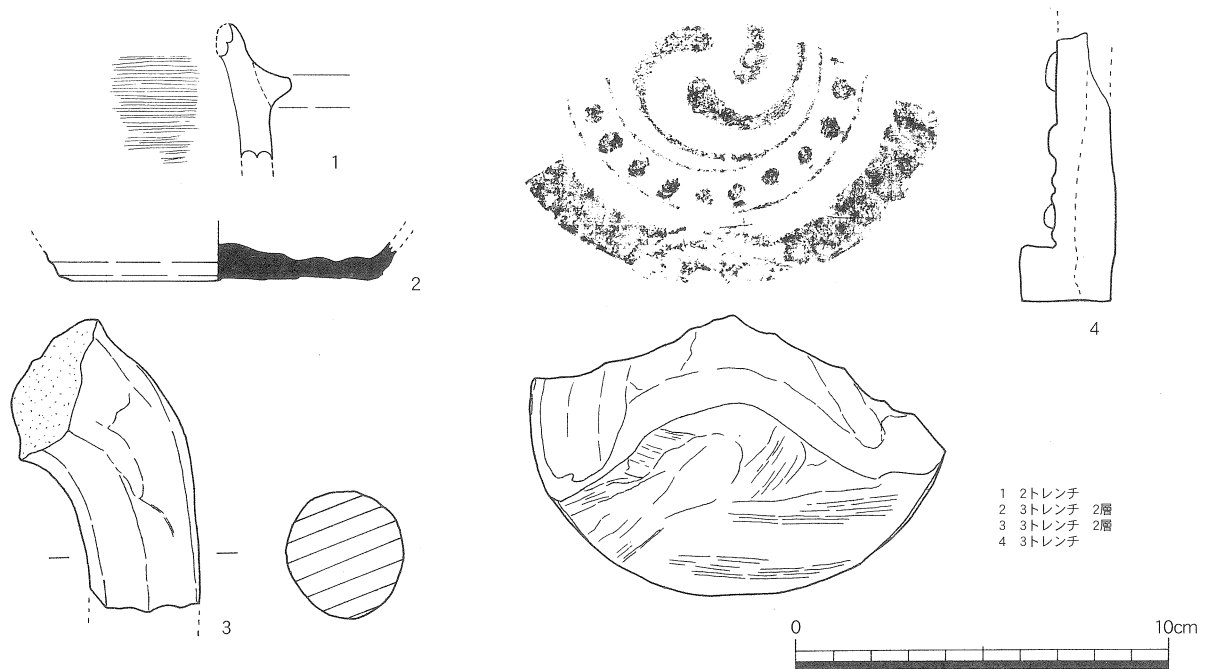
4. まとめ

調査の結果、1・4・5・7・9・15トレンチにおいて、幅約2.0m、深さ約1.5mの暗灰褐色粘質土系の埋土を持つ溝を検出した。溝の底には粗砂が堆積しており、しっかりと水が流れていた痕跡が伺える。この地域に広がる条里型地割の遺構との関連が考えられたが、1トレンチの溝からのみ土師器片が出土しており、弥生時代～古墳時代にかけてのものと考えられ、溝の方向性の違いやその他の溝から出土遺物が無いことから条里型地割との関連性は低いものと推測する。

この地域一帯は全体的にベース面を削り取られたようで、耕作土直下には整地土が敷かれており、当時はもっと高い微高地であった可能性が考えられる。

調査地北端の一部ではあるが、包含層が確認できたことから調査地及びその周辺に遺跡の展開が見られることが明らかとなった。土師器片が比較的多く出土していることなどから、北に向かうにつれ、遺跡が広がって行く、もしくは良好に残存している可能性が高いものと考えられ、今後周囲の開発事業に対しては注意が必要である。

調査地東側に位置している『道下遺跡』や、調査地周辺に広がっている条里型地割に関連する遺構の存在が予測されていたが、今回の調査において確認した遺構との関連性を完全に否定できるものではない。検出した溝も多度津町側に延びる可能性は高いと考えられる。



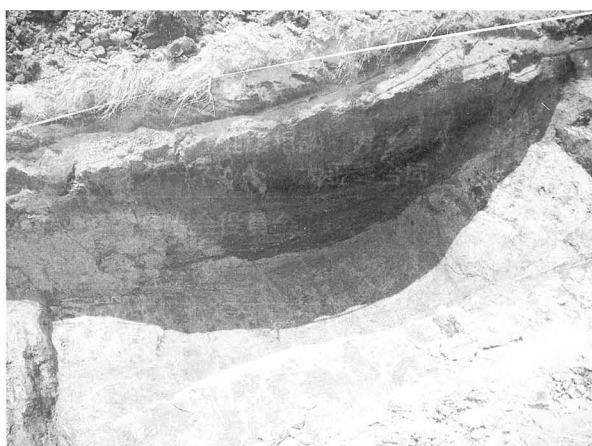
第7図 出土遺物実測図



調査区全景：南東から



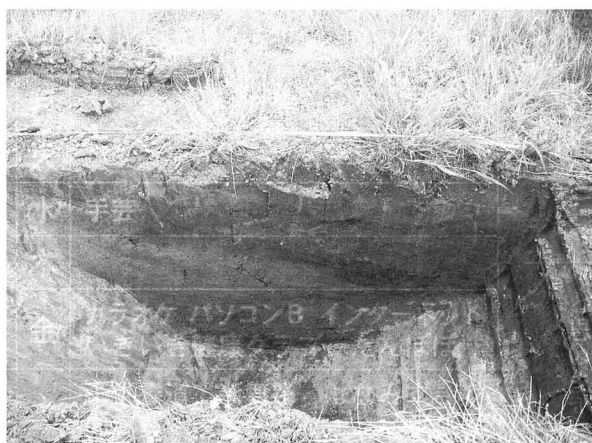
調査風景：西から



1トレンチ大溝確認状況：北から



15トレンチ大溝確認状況：南西から

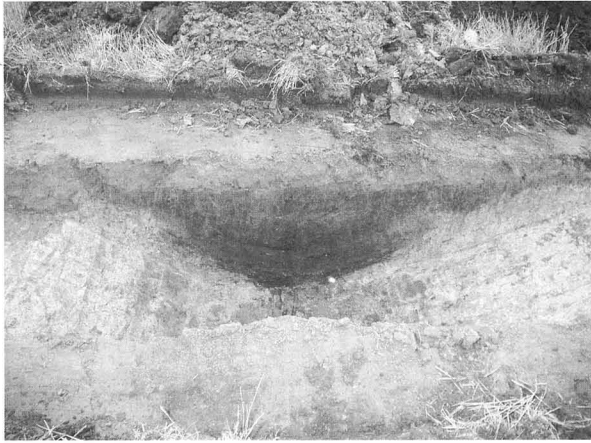


4トレンチ大溝確認状況：北から



5トレンチ大溝確認状況：北から

図版1 中津町字兵庫・金倉町字川西地区試掘調査(1)



9トレンチ大溝確認状況：北から



7トレンチ大溝確認状況：北から



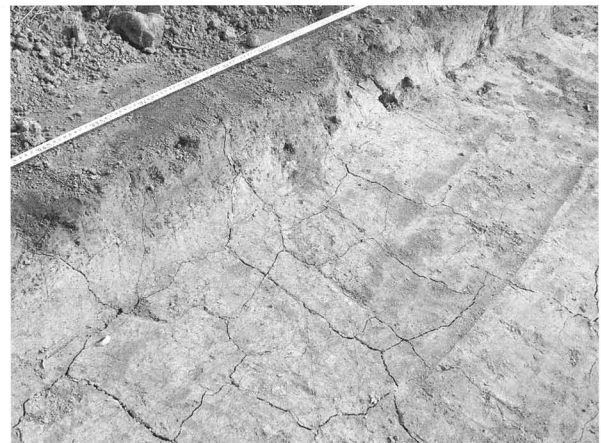
8トレンチ大溝確認状況：東から



2トレンチ小溝確認状況：北から



3トレンチ小溝確認状況：西から



3トレンチ小溝確認状況：北東から

図版2 中津町字兵庫・金倉町字川西地区試掘調査(2)



3トレンチ土坑確認状況：東から



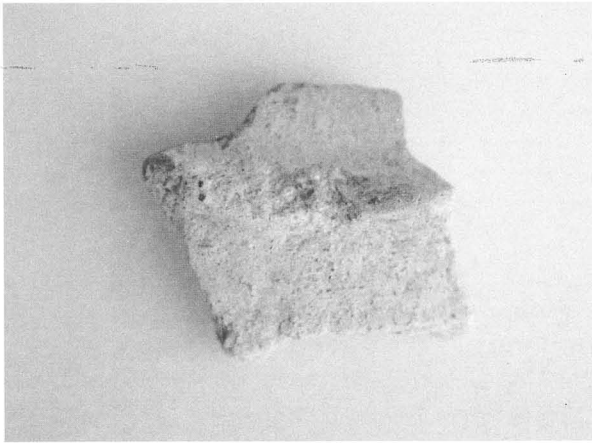
6トレンチ小溝確認状況：西から



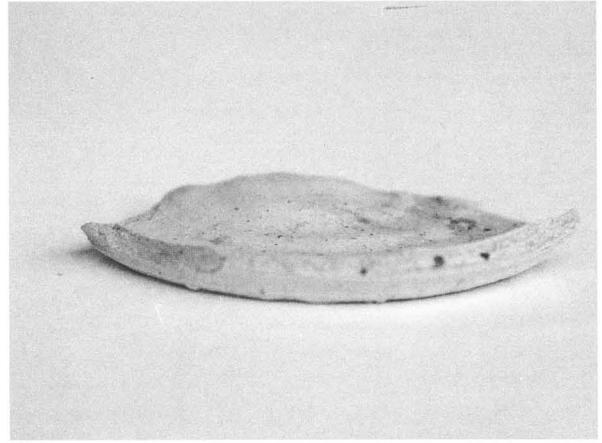
13トレンチ土坑確認状況：東から



埋め戻し作業風景



第7図-1



第7図-2



第7図-3



第7図-4

柞原町字上所地区

第Ⅲ章 柞原町字上所地区試掘調査

| | |
|-------|--|
| 調査対象地 | 柞原町字上所 385-2、395-1、395-3、396、397、 398、399-1、399-2、401-3、405-7、405-9、 406-1、407-1、408-1 |
| 調査期間 | 平成19年5月21日～5月23日 |
| 調査面積 | 約209.8㎡（トレンチ掘削面積） |

1. 立地と環境

調査地は、香川県の主要幹線道路国道11号線と県道丸亀三好線との交差点の南西沿いに位置し、丸亀平野を形成する中心である南北に流れる土器川の左岸域に位置する。

調査地の北東域には古代包含地で知られる『柞原町西村遺跡』が所在し、南西域には弥生～古代包含地の『田村池遺跡』が所在する。さらに東方の程近い位置には中世城館である『柞原土居構城跡』の所在が知られている。

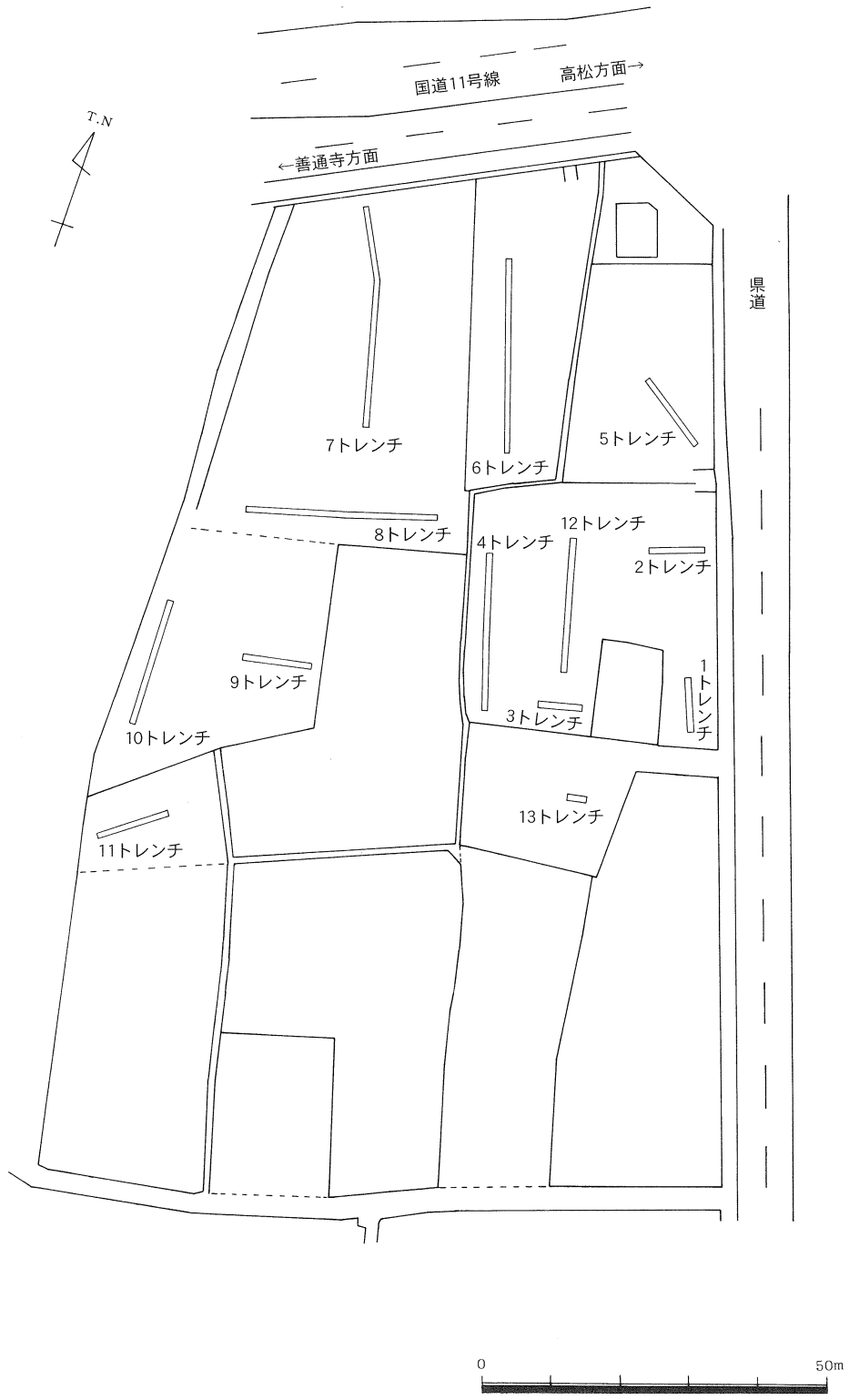


第8図 調査地位置図

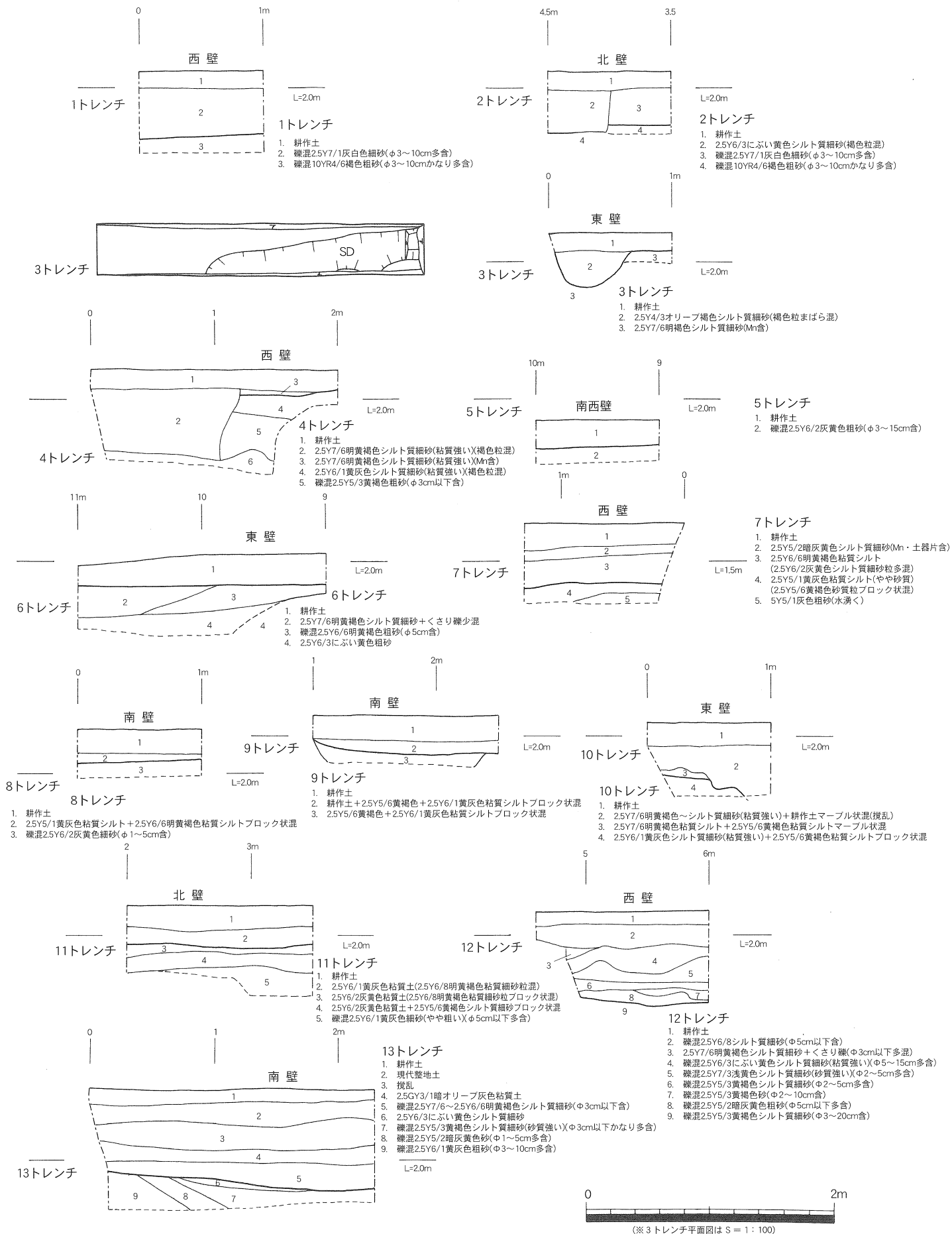
2. 調査に至る経緯

柞原町字上所地区における商業施設建設計画に伴い、事業者から埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについての照会文書が平成19年5月2日に提出された。市教育委員会には当該地の埋蔵文化財包蔵状況の資料が整っていないことから試掘調査を5月21日から5月23日にかけて実施した。

今回照会のあった地区内に13ヶ所のトレンチを設定した。掘削作業は、重機により実施し、トレンチ配置図・遺構平面図・土層断面図の作成及び写真撮影のため、人力によりトレンチ内を精査し、調査を実施した。



第9図 トレンチ配置図



第10図 トレンチ平面・土層断面図

3. 調査の概要

ほぼ調査区全域で明黄褐色系のシルト質粘細砂のベースと考えられる層が確認できた。遺構は、旧河川跡（起伏状況及び底部への砂等の堆積状況による）、溝1条・土坑1基を検出した。

以下、特徴的なトレンチについて報告していきたい。

【1 トレンチ】

県道丸亀三好線に沿うように、南北に長8.1mのトレンチを設定した。耕作土直下で直径3～10cm大の礫が多く含まれている層があり、さらに0.2mほど掘り下げると灰褐色が強くなり、礫も小粒になっていく。地下水が湧き出てきたので、掘削作業を停止し図面作成等を行った。

【2 トレンチ】

国道11号線と平行に東西に長さ8.2mのトレンチを設定した。トレンチ東端から4m付近のところに地形の西肩部を検出した。1トレンチと同様礫を多く含んだ層からにぶい黄色シルト質細砂の層と変わっていく。

【3 トレンチ】

1・2トレンチと同じ一筆の田に東西方向で長さ6.5mのトレンチを設定した。耕作土直下で灰褐色の埋土を持つ溝1条を検出した。溝は東側と南側に延びていくものと考えられる。溝からは古墳時代～古代にかけてのものと推定できる須恵器片が出土している。

【4 トレンチ】

1～3トレンチと同じ田の西端に南北方向で長さ23.0mのトレンチを設定した。トレンチ南端で攪乱土坑を確認した。南端から5m付近において直径約30cmの土坑を検出したが、出土遺物は無い。15m付近では灰白色細砂質層に直径3～10cmほどの礫をかなり多く含む幅3～4mほどの流路跡を検出し、北北東から南南西を軸に流れていたものと考えられる。ベース面も旧河川に近づくにつれ明黄褐色シルト質細砂に礫を多く含むようになる。

第11図-1は須恵器の坏蓋である。口径がやや大型化していく傾向が見られ、9世紀頃のものと考えられる。

【7 トレンチ】

国道11号線沿いに南北方向で長さ32.5mのトレンチを設定した。トレンチ北端から5.5mまで耕作土直下に暗灰黄色系シルト質細砂の包含層が確認できた。そこから須恵器片と土師器片が出土している。トレンチ北端から1m付近において旧河川の肩部分と思われる土層の変化点を検出した。4トレンチと同様に北北東から南南西にかけて軸に流れていたものと考えられ、黄灰色系の粗砂が堆積しており、南に進むに連れ旧河川の検出面が下がっており、5m付近が最も底が深いものと考えられる。南から6m付近から10mにかけて大きく攪乱が入っている。攪乱からは土師器片が1点出土した。20m付近からベース面が明黄褐色系シルト質粘細砂に変化する。

【9 トレンチ】

調査区西端部に東西方向に長さ10mのトレンチを設定した。他のベース面に比べて橙

系色が強い。また、粘質も強い。東端から5m付近において旧河川の南東肩と考えられるラインを検出した。そのラインから西では灰黄色シルト質細砂層に礫をかなり多く含んでいる。

【10トレンチ】

9トレンチの西側に南北方向で長さ19mのトレンチを設定した。耕作土直下から約0.4mが攪乱を受けており、明黄褐色系シルト質細砂に耕作土や灰色粘質土がブロック状に混ざっている。その攪乱から現代の瓦片、磁器片、土師器片、須恵器片が出土している。

【12トレンチ】

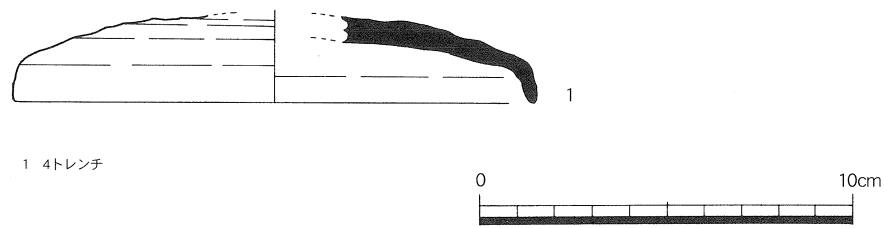
3トレンチにおいて遺構を検出したので、周辺の詳しい情報を得るために、3トレンチのすぐ北側に設定した。耕作土直下から下に0.4mほど古い段階のものと思われる整地土があり、その下の層である黄褐色系粗砂層をベース層と捉えた。遺構は、認められなかった。

【13トレンチ】

3トレンチにおいて遺構が検出できたので、その広がりを確認するために南側の田に東西方向で長さ3mのトレンチを設定した。地表から下に60cmほどは、この田を造成したときの花崗土や粘土堆積層が確認できた。下から4層は旧河川の堆積層と考えられ、礫をかなり多く含む灰黄色系～黄褐色系シルト質細砂が確認できた。

| トレンチ名 | 延長 (m) | 主な時代 | 主な遺構 | 出土遺物等 |
|--------|--------|-----------|-----------|---------------------|
| 1トレンチ | 8.1 | 不明 | 無し | 無し |
| 2トレンチ | 8.2 | 不明 | 無し | 無し |
| 3トレンチ | 6.5 | 古墳時代～古代 | 溝1条 | 磁器片、須恵器片 |
| 4トレンチ | 23.0 | 古代 | 土坑1基、旧河川跡 | 土師器片、須恵器片 |
| 5トレンチ | 12.0 | 不明 | 無し | 無し |
| 6トレンチ | 28.5 | 不明 | 無し | 無し |
| 7トレンチ | 32.5 | 古代～中世 | 旧河川跡 | 土師器片、須恵器片 |
| 8トレンチ | 28.0 | 近世以降 | 無し | 磁器片2点 |
| 9トレンチ | 10.0 | 不明 | 旧河川跡 | 無し |
| 10トレンチ | 19.0 | 古代、中世、近現代 | 無し | 土師器片、須恵器片 磁器片、瓦片 |
| 11トレンチ | 11.0 | 不明 | 無し | 無し |
| 12トレンチ | 20.0 | 不明 | 無し | 無し |
| 13トレンチ | 3.0 | 不明 | 旧河川跡 | 無し |

第2表 柞原町字上所地区試掘調査 トレンチ概要



第11図 出土遺物実測図

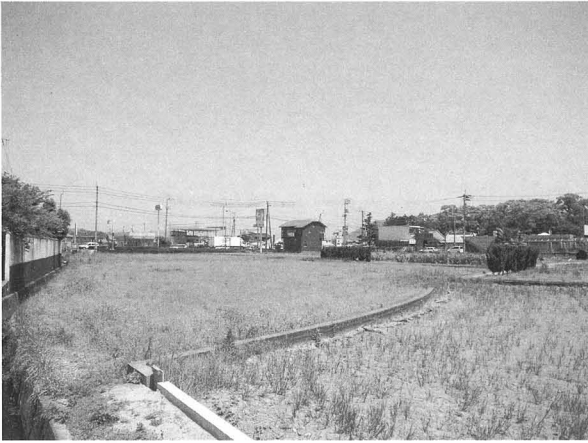
4. まとめ

調査の結果、3トレンチでは、オリーブ褐色系シルト質細砂を埋土とする溝と考えられる遺構が検出できた。古墳時代～古代にかけてのものと推定できる須恵器片が4点出土している。4トレンチでは、直径30cm・深さ15cmほどの土坑を検出した。しかし、遺物などはなく、不確かなものであった。そして、4・7・9・13トレンチからは、灰白色系砂質層に礫を多く含んだ旧河川跡と考えられる土層ラインを検出した。連続且つ複雑に流路軸が通ることから考えると、流域としてはかなり広く、その底部の起伏が見られる状況である可能性もある。いずれにせよ堆積状況などから水が流れていた痕跡が残り、礫を多く含むことから当時水量のある河川域であったことが推察され、周辺地域特に微高地や中洲上にこれらの河川を利用した集落が広がっている可能性も考えられる。

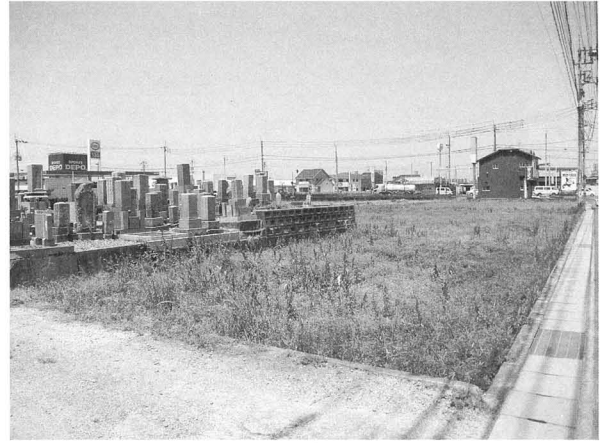
今回の調査では、南西部で遺構を確認することができた。微量であるが出土した遺物等の状況から検討すると、古代頃の遺構であると考えられ、北東に位置する『柞原町西村遺跡』との関連が期待されるが、その中間域が流域によって分断されていることから、調査から関連付ける資料は得られなかった。

確認できた明確な遺構は、3トレンチの溝1条のみであった。溝の上部は大半が削平により失われている状況であり、残存状況は非常に悪い。周辺に設定したトレンチからも遺構の展開は認められなかった。更に、ほとんどのトレンチにおいて攪乱や農地造成のために削りとられた痕跡が見られることから、現状から遺跡の存在を確認することは極めて困難であると考えられる。

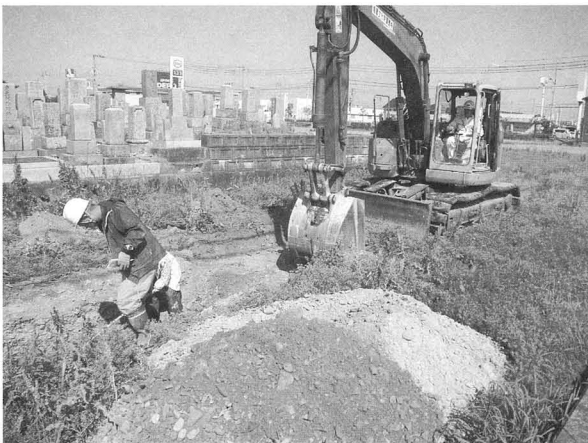
今回の調査結果をもとに香川県教育委員会と協議した結果、遺構の所在は見られるものの極めて希薄であること、攪乱により本来の地形が失われていること等の理由から保護措置は不要とした。



調査区全景：南西から



調査区全景：南東から



調査風景：北東から



埋め戻し風景：東から



1トレンチ全景：北から



1トレンチ土層状況：東から

図版5 柞原町字上所地区試掘調査(1)



2トレンチ全景：東から



2トレンチ土層状況：南から



3トレンチ全景：東から



3トレンチ溝遺構断ち割り土層：西から



4トレンチ全景：南から

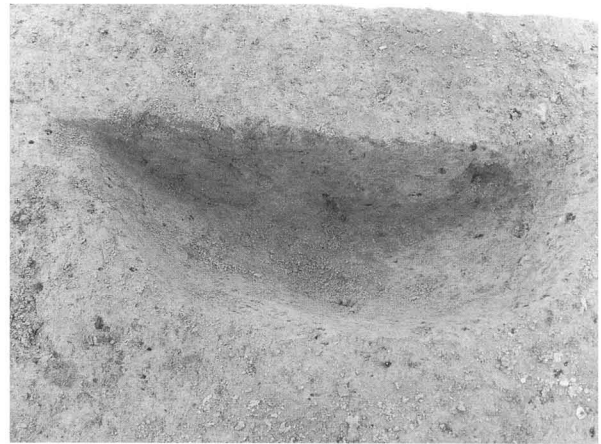


4トレンチ土層状況：東から

図版6 柞原町字上所地区試掘調査(2)



4トレンチ土坑検出状況：東から



4トレンチ土坑断面土層：東から



5トレンチ全景：南東から



5トレンチ土層状況：北東から



6トレンチ全景：南から



6トレンチ土層状況：西から

図版7 柞原町字上所地区試掘調査（3）



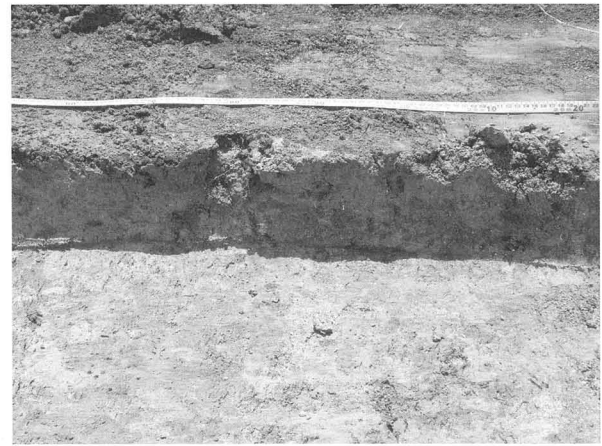
7トレンチ全景：南から



7トレンチ土層状況：東から



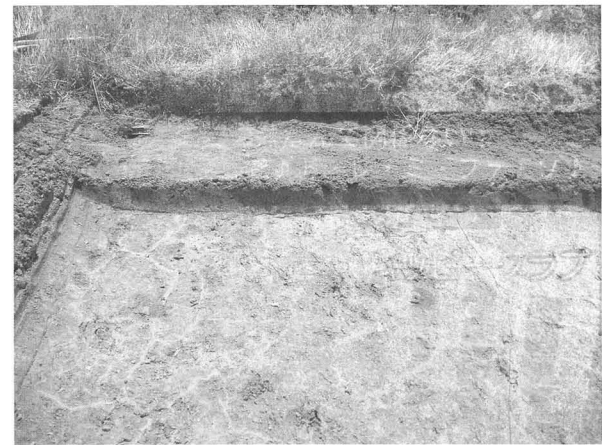
8トレンチ全景：東から



8トレンチ土層状況：北から



9トレンチ全景：東から



9トレンチ土層状況：北から

図版8 柞原町字上所地区試掘調査（4）



10トレンチ全景：北から



10トレンチ土層状況：西から



11トレンチ全景：東から



11トレンチ土層状況：南から



12トレンチ全景：北から



12トレンチ土層状況：東から

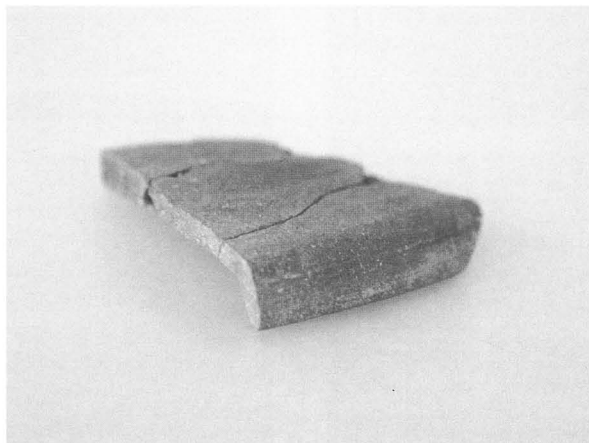
図版9 柞原町字上所地区試掘調査（5）



13トレンチ全景：西から



13トレンチ土層状況：北から



第11図-1

郡家町字八幡下地区
【郡家原遺跡】

| トレンチ名 | 延長 (m) | 主な時代 | 主な遺構 | 出土遺物等 |
|--------|--------|------|------|------------|
| 1 トレンチ | 23.5 | 奈良時代 | 溝 | 弥生土器片、須恵器片 |
| 2 トレンチ | 14.5 | 弥生時代 | 溝 | 弥生土器片 |
| 3 トレンチ | 4.0 | 不明 | 無し | 土師質土器片 |

第3表 郡家町字八幡下地区試掘調査 トレンチ概要

る。溝跡底部より須恵器片が出土した。第13図-1は、須恵器の壺の口縁である。

トレンチ中央部から南にかけて弥生土器片を含む溝SD02~04の埋土が広がる。南端に近づくに連れ小石混じりの黒褐色粘質土に変わる。この層からは、弥生時代後期の支脚片である第13図-2が出土した。小片ではあるが丁寧なつくりで外面には叩き目調整がみられる。

【2 トレンチ】

ほぼ中央部でSD02~04を確認する。埋土からは弥生土器片が出土している。溝跡より東側では黄色ベース土を確認した。西側は礫層が見られ、旧流路による堆積のものと考えられる。

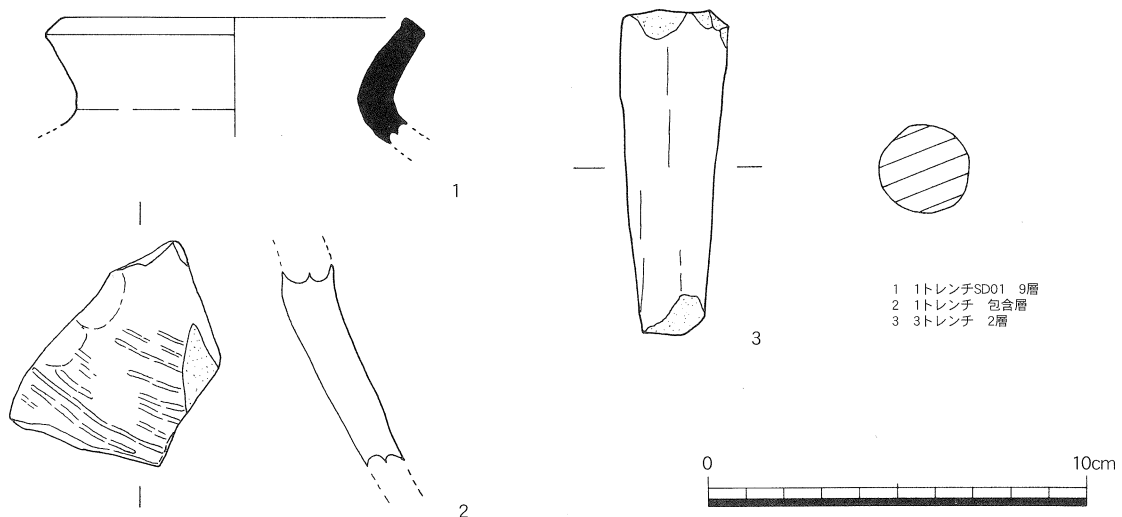
【3 トレンチ】

地表下約0.45mで、浅い窪地がまれに見られるが肩口は不定形であり、はっきりしない。顕著な遺構の検出はなかった。土師質の土鍋脚部片が1点出土している（第13図-3）。

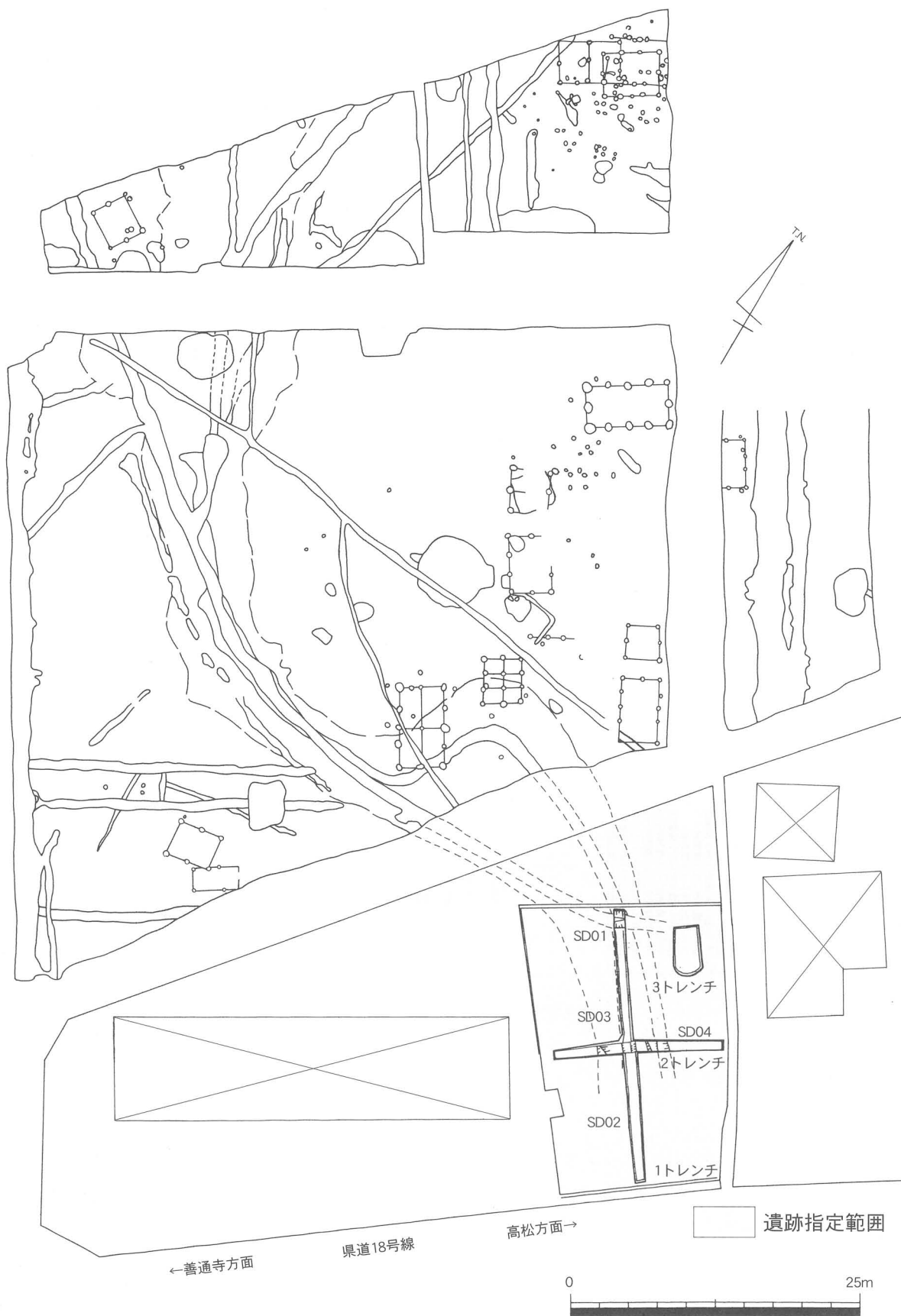
4. まとめ

調査の結果、『郡家原遺跡』で検出された溝の延長部と考えられる弥生時代後期と奈良時代の溝跡を確認した。これにより、集落地の広がりも南側にも延びていくことが確認され今後の開発事業には十分な注意が必要であることがわかった。

香川県教育委員会との協議の結果、当該箇所は周知の埋蔵文化財包蔵地『郡家原遺跡』とし文化財保護法の適用を受けることとなった。



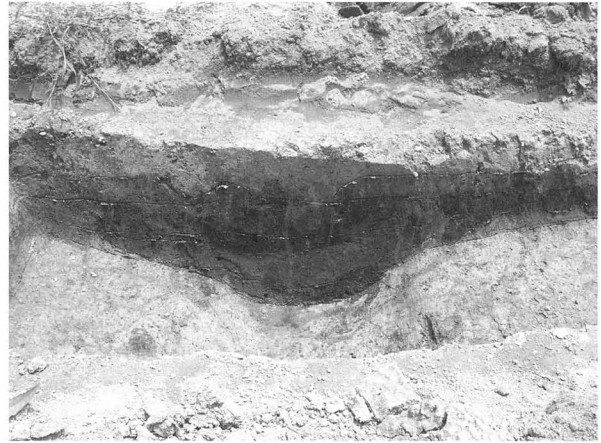
第13図 出土遺物実測図



第14図 トレンチ配置図



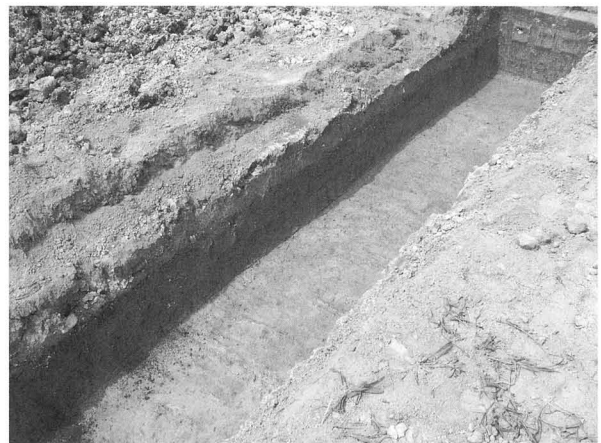
1トレンチSD01：南東から



1トレンチSD01：西から



1トレンチSD02：南東から



2トレンチ ベース土層検出状況：南から



2トレンチSD02：南東から



2トレンチSD02：南から

図版11 郡家町字八幡下地区試掘調査（1）



3トレンチ全景：南東から



3トレンチ北西壁土層：南東から



第13図-1



第13図-2



第13図-3

図版12 郡家町字八幡下地区試掘調査（2）

土器町西三丁目地区

第V章 土器町西三丁目地区試掘調査

| | |
|-------|--|
| 調査対象地 | 土器町西三丁目423-2、424、425、427、428、 431-2 |
| 調査期間 | 平成19年8月8日 |
| 調査面積 | 約72㎡（トレンチ掘削面積） |

1. 立地と環境

調査地は、史跡丸亀城跡東面の内濠の東側を南に下り、国道11号線に達する約250m手前の聖池南に位置する。

聖池は清水川の途中に築かれたため池で、右岸に位置する調査地の対岸側には『土器町C遺跡（包含地：古墳時代）』や『山北1号塚（墓：中世）』の所在が知られている。

2. 調査に至る経緯

平成19年7月5日に、分譲住宅建設用地開発に伴い埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについての照会文書が提出された。

調査対象地の直近では調査事例が無かったことから周知の埋蔵文化財包蔵地はなかったが、周辺の遺跡分布状況や地理的状況から考えると、十分遺跡の包蔵が推測される区域であった。その包蔵状況を確認するため、平成19年7月5日に土地所有者への立ち入り申請を行い平成19年8月8日に試掘調査を実施した。

今回照会のあった地区内に3本のトレンチを設定して調査を実施した。また、各トレンチとも地形を考慮したうえ、東西軸にて設定することとした。

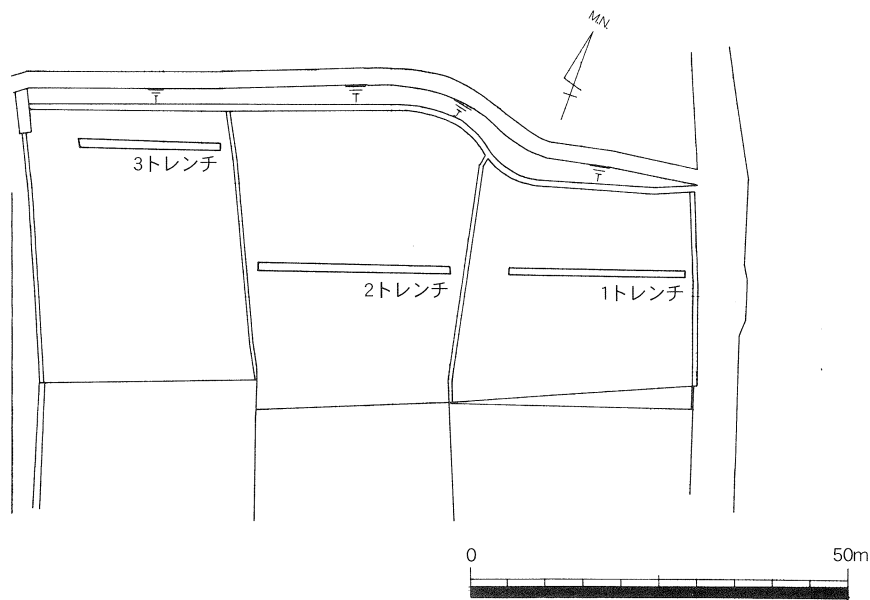
掘削は、重機により行い、精査は人力で行った。記録は、トレンチ配置図・土層断面図の作成及び写真撮影とした。

3. 調査の概要

試掘トレンチは、対象区域を東西に横断するように3本設定したが、いずれも耕作土直下で粘質土層が認められた。堆積状況から、丸亀平野で広く見られるベース（地山）層であると考えられる。耕作土直下で、ベース層が認められることから、現在の水田に整備され



第16図 調査地位置図



第17図 トレンチ配置図

る以前に大きく削平を受けていることが分かる。

全トレンチを通じて遺物・遺構共に認められず原状からは埋蔵文化財包蔵地としての資料は全く得ることができなかった。

以下、トレンチ毎の概要を記述する。

【1トレンチ】

表面は、0.2～0.3m厚の耕作土で覆われる。耕作土直下には、整地層は見られず灰黄色系の粘質土の堆積層となっている。丸亀平野を形成する沖積層と考えられる。遺物・遺構共に認められない。

【2トレンチ】

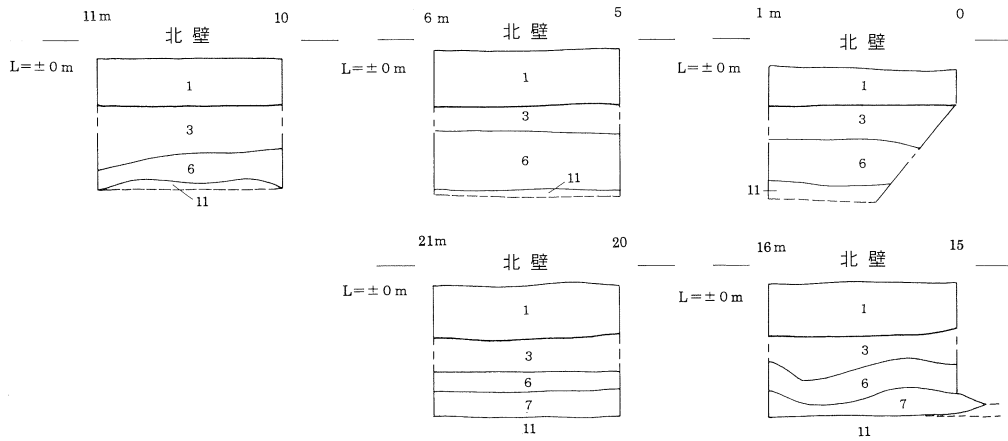
表面は、0.15～0.25m厚の耕作土で覆われる。耕作土直下では1トレンチ同様に整地土は見られず、灰黄色系の粘質土の堆積層となっている。

トレンチ西端付近で、耕作土直下で薄く褐色粘質層が見られるが現在の水田に整地した際の床土と思われる。遺構・遺物共に認められない。

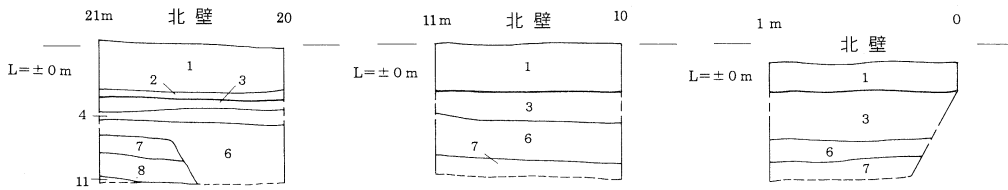
【3トレンチ】

表面は、0.2～0.3m厚の耕作土で覆われる。耕作土直下では1トレンチ同様に整地土は見られず、灰黄色系の粘質土の堆積層となっている。ベースになっている粘質層を分層すると、マンガンが多く含む層が上層に見られることから1・2トレンチのベース層とは若干形成過程が異なるものと思われる。遺物・遺構共に認められない。

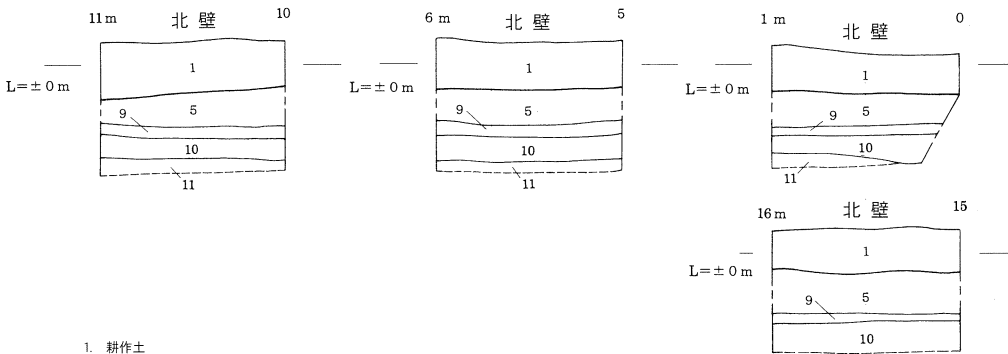
1トレンチ



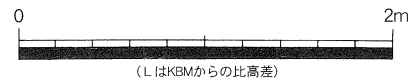
2トレンチ



3トレンチ



1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/4~2.5Y7/1にぶい黄色~灰黄色粘質土
4. 2.5Y7/1灰黄色粘質土
5. 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂(Mn多含)
6. 2.5Y7/2灰黄色シルト質細砂
7. 2.5Y7/2灰黄色粘質細砂
8. 2.5Y6/2灰黄色粘質土
9. 2.5Y5/4~5/6黄褐色粘質土(Mn・炭化物多含)
10. 2.5Y7/3浅黄色粘質土(Mn多含)
11. 2.5Y6/2灰黄色粘質土+2.5Y5/4~5/6黄褐色粘質土ブロック状多混



第18図 トレンチ土層断面図

| トレンチ名 | 延長 (m) | 主な時代 | 主な遺構 | 出土遺物等 |
|--------|--------|------|------|-------|
| 1 トレンチ | 23.4 | 不明 | 無し | 無し |
| 2 トレンチ | 25.5 | 不明 | 無し | 無し |
| 3 トレンチ | 18.7 | 不明 | 無し | 無し |

第4表 土器町西三丁目地区試掘調査 トレンチ概要

4. まとめ

今回の調査では、埋蔵文化財に関する資料は全く得られなかった。大きく土地改良を受けているようであり、旧状を掴むことができないことから、以前に遺跡が所在していたかどうかは不明である。

上述のことから、現在、当該地における埋蔵文化財の所在はない。よって、文化財保護法の適用は受けないものと判断した。



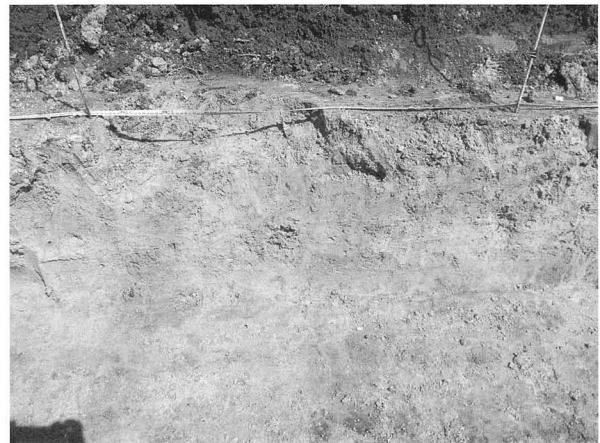
調査区全景：西から



重機による矩掘削作業：東から



1トレンチ土層(0~1m)：南から



1トレンチ土層(5~6m)：南から



1トレンチ土層(10~11m)：南から



1トレンチ土層(15~16m)：南から

図版13 土器町西三丁目地区試掘調査(1)



1トレンチ土層(20~21m)：南から



1トレンチ全景：東から



2トレンチ土層(0~1m)：南から



2トレンチ土層(10~11m)：南から



2トレンチ土層(20~21m)：南から



2トレンチ全景：東から

図版14 土器町西三丁目地区試掘調査(2)



3トレンチ土層(0~1m)：南から



3トレンチ土層(5~6m)：南から



3トレンチ全景：東から



トレンチ埋め戻し作業風景：南東から

三条町字中村地区
【三条中村遺跡】

第VI章 三条町字中村地区試掘調査

【三条中村遺跡】

| | |
|-------|-------------------------------|
| 調査対象地 | 三条町字中村774、793、794、795-1 |
| 調査期間 | 平成19年8月21日～平成19年8月22日 |
| 調査面積 | 約206m ² （トレンチ掘削面積） |

1. 立地と環境

調査地は、国道11号線から県道丸亀三好線を南に上り、高松自動車道を横断して500m程に位置する。県道丸亀三好線の西側には旧金比羅参詣丸亀道である市道原八幡上線が通っており、古くから交通の要所であったことをうかがい知ることができる。

調査地から西400mの新池内は、『中村新池遺跡（中世：包含地）』、東400mの宮池内は『宮池遺跡（古代：包含地）』として知られている。

また、北500mの高松自動車道用地では、『郡家原遺跡（弥生～古代：集落）』、『三条黒島遺跡（旧石器～弥生：包含地）』、『三条番ノ原遺跡（弥生～中世：包含地）』などが知られている。



第19図 調査地位置図

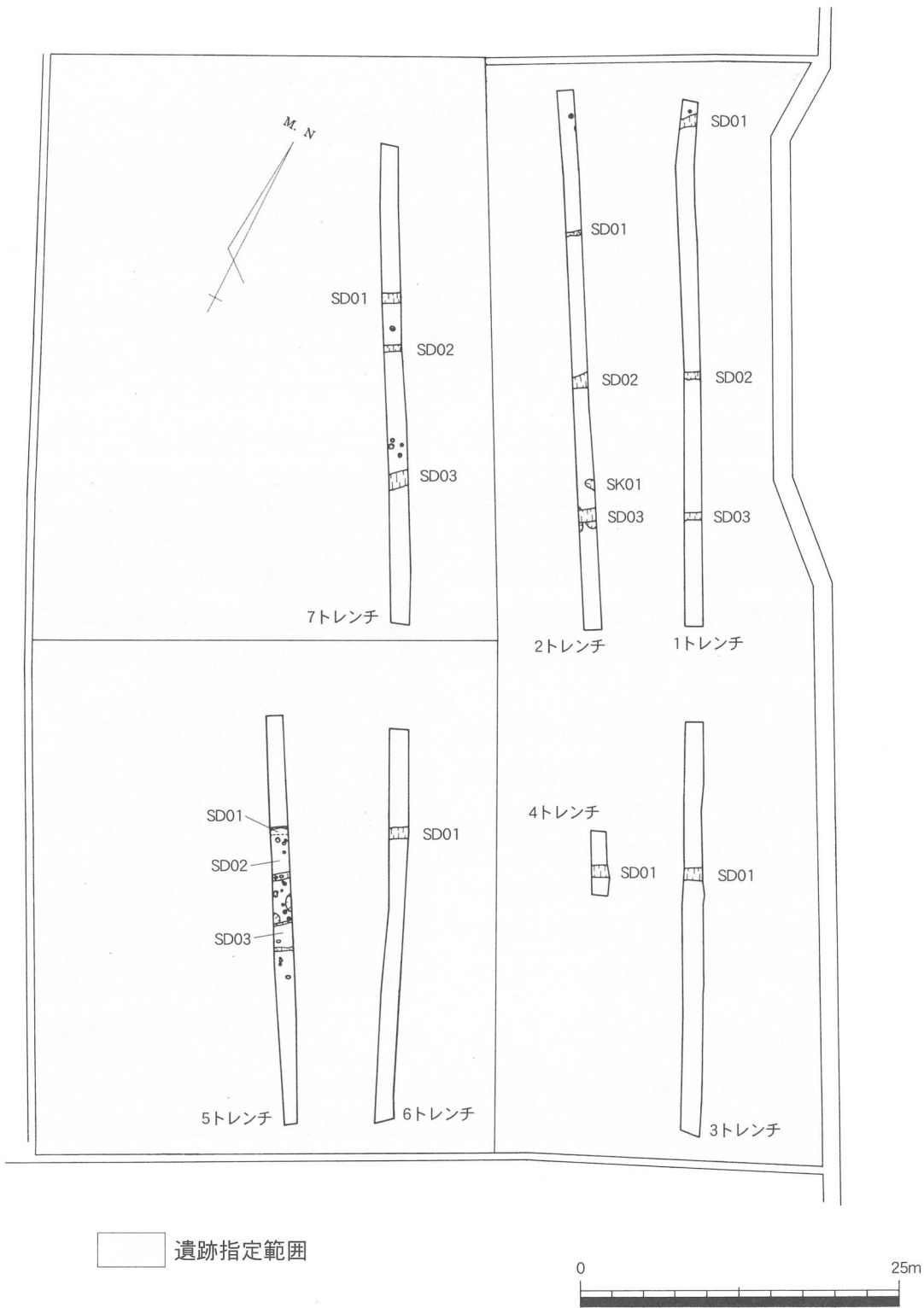
2. 調査に至る経緯

平成19年7月11日に分譲住宅建設用地開発に伴う埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについての照会がなされた。調査対象地の直近では調査事例が無かったことから周知の埋蔵文化財包蔵地はなかったが、周辺の遺跡分布状況や地理的状况から考えると、十分遺跡の包蔵が推測される区域であることから試掘調査の必要性が考えられた。平成19年8月6日付けで土地所有者に対する試掘調査の申請がおこなわれ、平成19年8月21日～22日に調査を実施した。

今回照会のあった地区内に7ヶ所のトレンチを設定した。掘削は、重機により行い、精査は人力で行った。記録は、トレンチ配置図・遺構平面図・土層断面図の作成及び写真撮影で実施した。

3. 調査の概要

試掘トレンチは、開発計画地内に7本を設定した。周辺の田に水が張られていることから、水の湧き出しによって掘削できないところもあった。特に西部は耕作土を掘削しただけで水が溜まって



第20図 トレンチ配置図

いく状況であったことから、トレンチの設定はできなかった。

以下、トレンチ毎の概要を記述する。

【1 トレンチ】

耕作土厚約0.22m、整地土厚約0.1～0.2mを測る。整地土直下でベース層を確認した。北に向かい緩やかに下る谷地形が認められ、北からSD01、02、03の3本の溝を検出した。SD01は北東～南西軸の(天幅約0.6m、深さ0.22m)溝である。埋土は、暗灰黄色粘質細砂で遺物は認められなかった。溝の北側でピット(径約0.2m)1基を検出した。

中央付近では、東西軸の溝SD02(天幅約0.75m、深さ約0.2m)を検出した。埋土は暗い黄灰色粘質土で遺物は認められなかった。

南端付近では、SD02と同方向の溝SD03(天幅約0.85m、深さ約0.24m)を検出した。埋土は黒褐色砂礫で遺物は認められなかった。

表土直下より須恵器片、土師器片が少量出土した。

【2 トレンチ】

2トレンチは1トレンチと平行に設定され、SD01～03の続きを検出した。SD03の埋土より土師器小片が1点出土した。北側でピット(径約0.25m、径約0.45m)2基、南側でピット3基を検出した。2基はSD03より先行する。埋土は灰黄色粘質細砂で、土坑である可能性がある。

【3 トレンチ】

整地土直下でベース層を確認。東西軸の溝SD01(天幅約0.78m)検出。埋土は黒褐色混礫細砂で土師器片1点出土。

【4 トレンチ】

耕作土直下でベース層を確認。東西軸の溝SD01(天幅約0.75m)検出。埋土は黒褐色粘質土で遺物は認められなかった。

【5 トレンチ】

整地土直下でベース層を確認。トレンチ中央付近で遺構が集中的に検出される。埋土の違いや遺構の切り合い状況から遺跡は複数時期に所属すると思われる。北の溝SD02(天幅2.74m、深さ0.14m)は、東西軸で埋土が灰黄色シルト質細砂で土師器片を包含する。

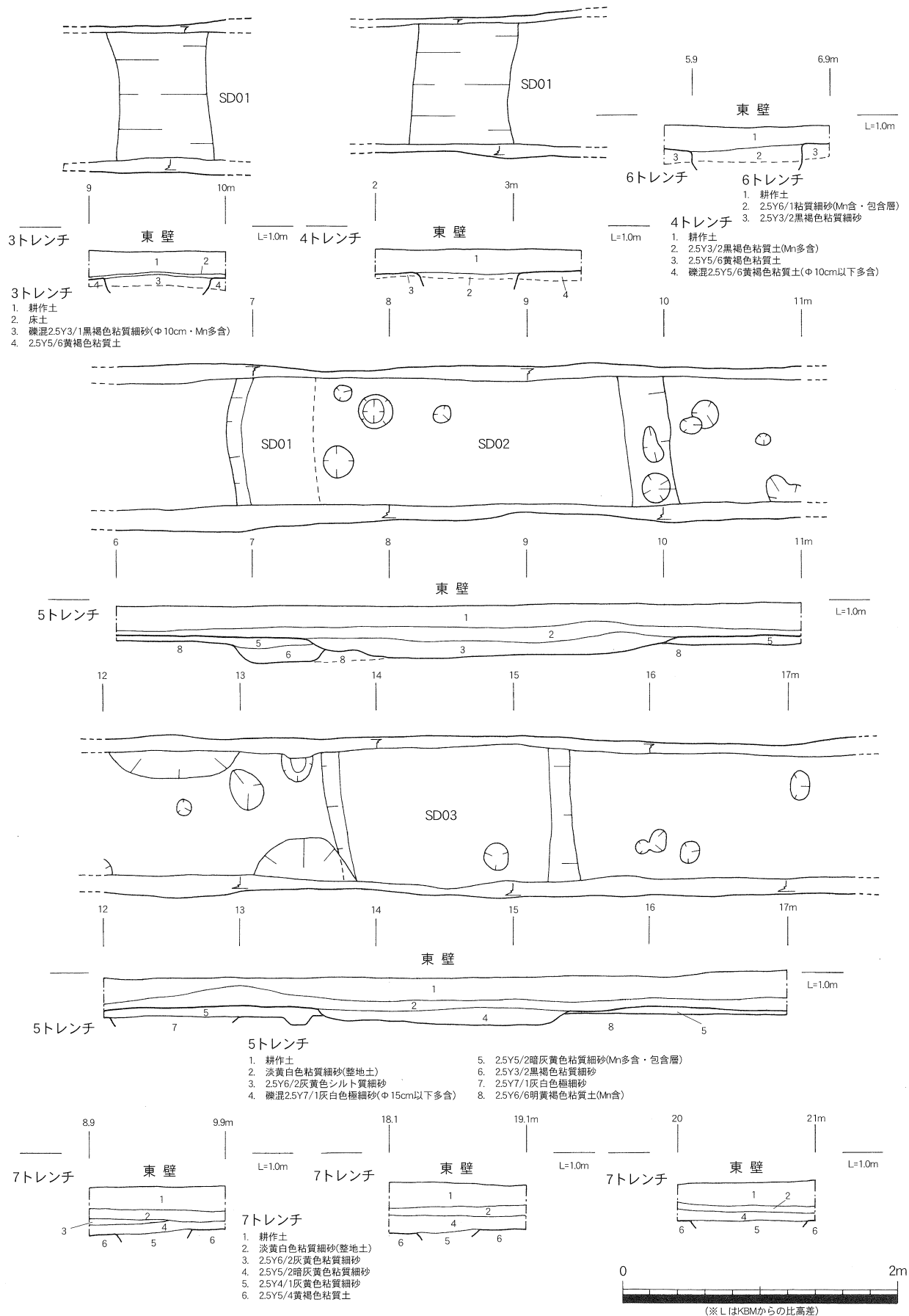
南側の溝SD03(天幅1.85m、深さ0.13m)は、東西軸で埋土が灰白色混礫極細砂で土師器片が1点出土した。

SD02の北肩に切られるように東西軸の溝SD01(天幅約0.7m、深さ約0.11m)を検出。埋土は黒褐色粘質細砂で遺物は認められなかった。

また、この付近だけピットが集中して検出されている。検出のみなので遺物の出土はないが、溝との切り合いも認められることから、溝遺構と同じく複数時期に渡るものと考えられる。

【6 トレンチ】

耕作土直下でベース層を確認。東西軸の溝SD01(天幅約0.76m)を検出。埋土は黒褐色粘質細砂で遺物は認められなかった。南端付近では整地土直下で0.2m厚程度の灰黄色粘質細砂層が堆積している。土師器片を多く含む包含層である。包含層直下はベース層であるが遺構は認められない。第23図-1・2は土師器の鍋、3は土師器の鉢片である。4は土師質の不明土器であ



第22図 トレンチ平面・土層断面図(2)

る。円形の穿孔の下部に取っ手状の痕跡をもつ。中世時期以降の所産と思われる。

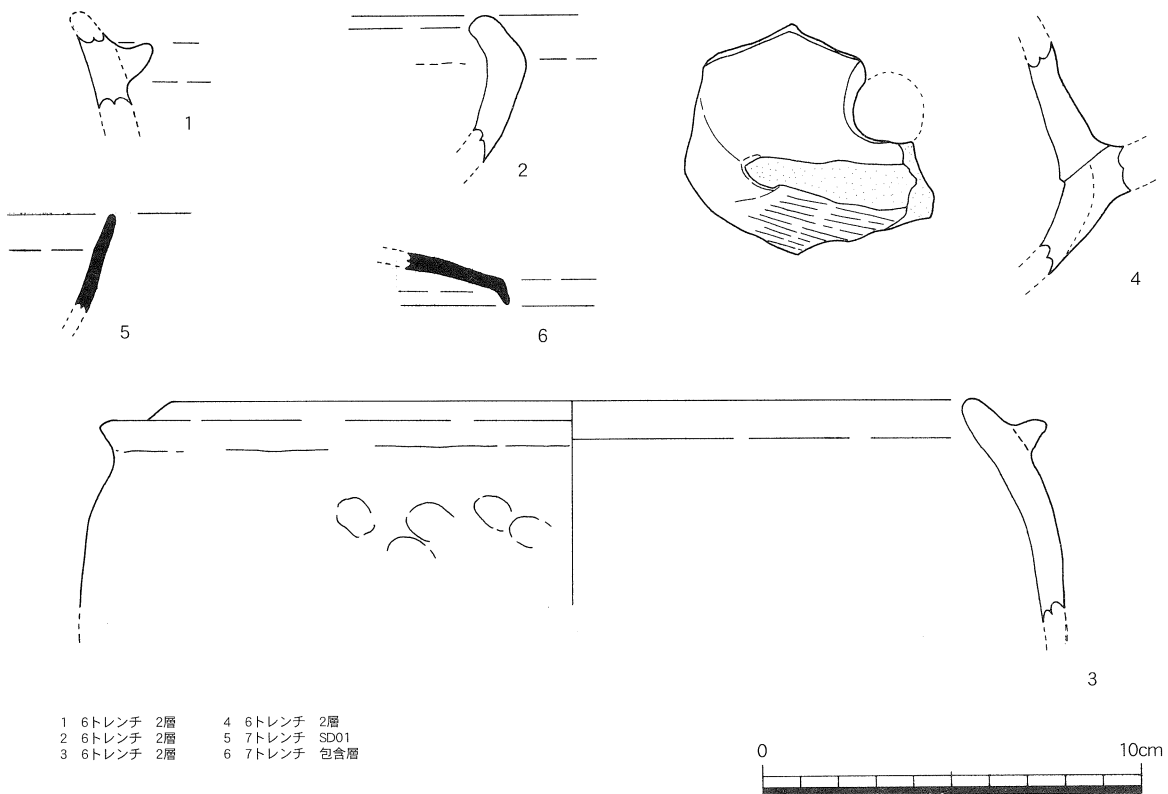
【7トレンチ】

耕作土厚約0.17m、整地土厚約0.12~0.19mを測り、整地土直下でベース層を確認した。1・2トレンチから続く3本の溝を検出した。東西軸の溝SD01（天幅約0.55m）を検出した。埋土は灰黄色粘質細砂である。第23図-5は須恵器の坏である。溝SD02（天幅約0.45m）は灰黄色粘質細砂の埋土を持つ。

SD03（天幅約0.84m）の埋土は灰黄色粘質細砂で土師器片と須恵器碗片が1点ずつ出土している。溝の北側でピット4基を検出した。第23図-6須恵器の蓋1点が出土している。口縁端部はやや外側に開く。9世紀頃を中心とした時代が考えられる。

| トレンチ名 | 延長 (m) | 主な時代 | 主な遺構 | 出土遺物等 |
|-------|--------|------|------------|-----------------|
| 1トレンチ | 32.7 | 不明 | 溝3条、ピット | 須恵器片、土師器片 |
| 2トレンチ | 33.6 | 不明 | 溝3条、ピット、土坑 | 弥生土器片、須恵器片、土師器片 |
| 3トレンチ | 25.7 | 不明 | 溝1条 | 土師器片 |
| 4トレンチ | 4.0 | 古代 | 溝1条 | 須恵器片、土師器片 |
| 5トレンチ | 25.4 | 不明 | 溝3条、ピット | 土師器片 |
| 6トレンチ | 24.5 | 中世 | 溝1条 | 土師器片 |
| 7トレンチ | 29.7 | 古代 | 溝3条、ピット5 | 須恵器片、土師器片 |

第5表 三条町字中村地区試掘調査 トレンチ概要



第23図 出土遺物実測図

調査の結果、区域内には現在の地割りにほぼ合致する東西軸の溝が複数確認できた。埋土が異なることから全てが同時に存在していたものではないと考えられる。

溝の周辺にはピットも複数認められるが、調査トレンチ内だけでは詳細までは掴めない。柱根痕跡と見られるものもあるが、大半は不明土坑である可能性が高い。

ベース層の検出面は、南西から北東にかけて下っており、各時代における造成に伴う削平が繰り返されているようで、南部及び西部は耕作土直下でベース層が検出できる。

部分的に谷地形や落ちがあるようで、包含層が僅かに確認できる部分もみられるが、全体的に遺構の深さも浅く本来の遺構面は消失してしまっているものと考えられる。

調査を通じて出土した遺物は、耕作土や整地土に包含されるものが主で遺構埋土に包含されるものは微量である。弥生土器と思えるようなものもあるが、ほとんどが土師器片や須恵器片で古代～中世の所産であると思われる。

各トレンチの遺構の関係は、1トレンチのSD02と2トレンチのSD02が連続、1トレンチのSD03と2トレンチのSD03が連続、3トレンチのSD01と4トレンチのSD01、6トレンチのSD01、5トレンチのSD01が連続するものと思われる。その他の溝は関係が不明である。

4. まとめ

今回の調査では、全てのトレンチで遺構を検出した。遺構は東西軸を基軸とする溝と、ピット（土坑である可能性有り。）であった。遺構は、部分的に掘り下げてみたが、浅く本来の遺構面は消失していると考えられる。消失の程度は明確ではない。

今回の調査で確認できた遺構は、溝とピットであり、集落跡と思われる。遺構に伴う遺物が微量であることから時期の特定には至らないが、遺構面上層の整地土や耕作土中で出土する土器の大半が須恵器片や土師器片であり、古代～中世にかけての時期に属すると思われる。

これらの調査結果をもとに、香川県教育委員会と協議した結果、今回の計画地全域が『三条中村遺跡』として周知の埋蔵文化財包蔵地に登録されることとなった。



調査区全景：北から



調査区全景：北西から



調査風景：北から



1トレンチSD01・SP01検出状況：西から



1トレンチSD01埋土状況：西から

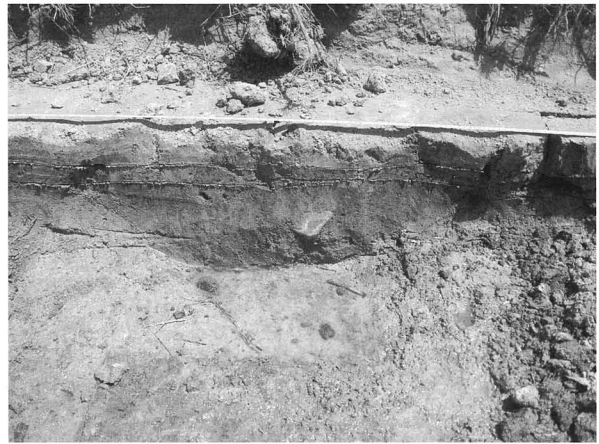


1トレンチSP01土層断面：西から

図版16 三条町字中村地区試掘調査（1）



1トレンチSD02検出状況：西から



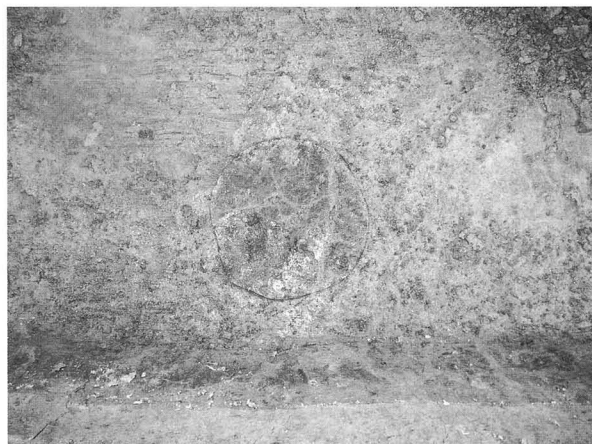
1トレンチSD02埋土状況：西から



1トレンチSD03埋土状況：西から



1トレンチ全景：北から



2トレンチ北端部ピット検出状況：東から



2トレンチSD01検出状況：南から

図版17 三条町字中村地区試掘調査（2）



2トレンチSD02検出状況：南から



2トレンチSD03・周辺ピット検出状況：北から



2トレンチSD03の北側ピット検出状況：南北から



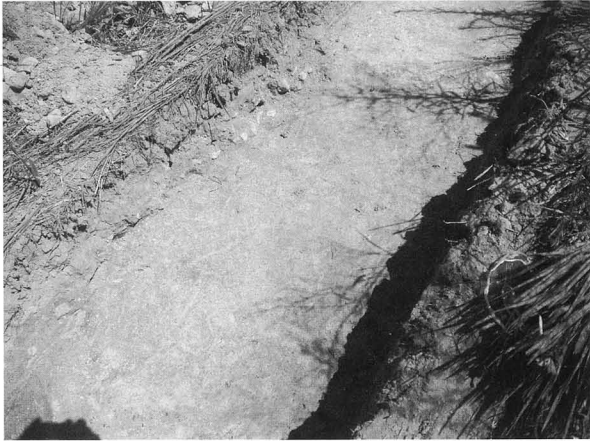
3トレンチSD01検出状況：南から



4トレンチSD01埋土状況：北から



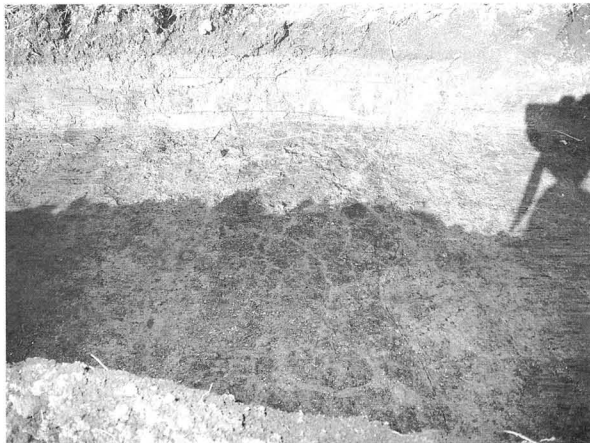
5トレンチSD01・02ピット群検出状況：東から



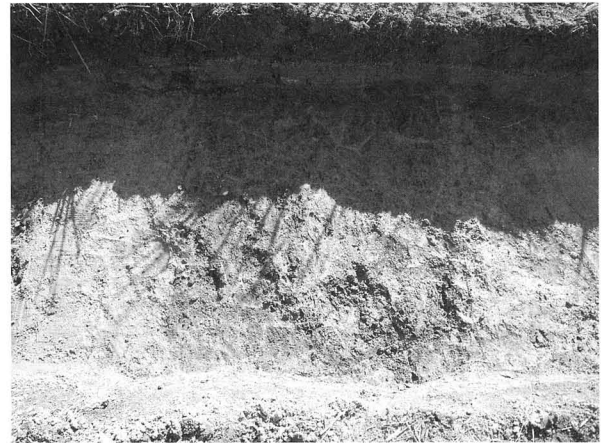
5トレンチSD03確認状況：東から



6トレンチSD01検出状況：南から



7トレンチSD01検出状況：東から



7トレンチSD02検出状況：西から



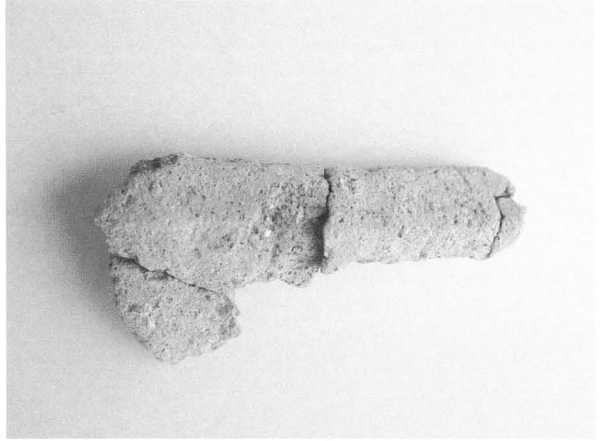
7トレンチSD03ピット群検出状況：北から



埋め戻し状況：南から



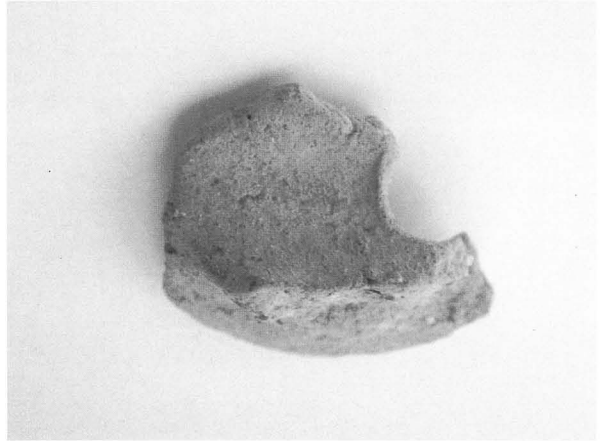
第23図-1



第23図-2



第23図-3



第23図-4



第23図-5



第23図-6

図版20 三条町字中村地区試掘調査（5）

原田町字東三分一地区

第Ⅶ章 原田町字東三分一地区試掘調査

| | |
|-------|---|
| 調査対象地 | 原田町字東三分一 2032-6、2033-1、2033-2、 2034-1、2040-4 |
| 調査面積 | 平成19年9月12日～9月13日 |
| 調査期間 | 約130.6㎡（トレンチ掘削面積） |

1. 立地と環境

今回開発が計画された区域は、丸亀平野の中央部からやや西寄りに位置し、丸亀市と善通寺市の境界付近で、主要地方道高松善通寺線の東側に広がる田園の一角に位置する。

約500m北には弥生時代前期末～中期初頭の環濠集落で著名な『中の池遺跡』がある。

『中の池遺跡』のすぐ南西側には縄文時代晩期～弥生時代前期の『平池西遺跡』や、弥生時代前期の『平池東遺跡』、縄文時代晩期と弥生時代中期の『平池南遺跡』が存在している。

約1km南側には、広範囲な微高地上に広がる弥生時代前期後半～中期初頭の大規模集落が想定されている善通寺市原田町の『五条遺跡』が存在する。これらのことから金倉川右岸地域に遺跡が集中していることが分かる。

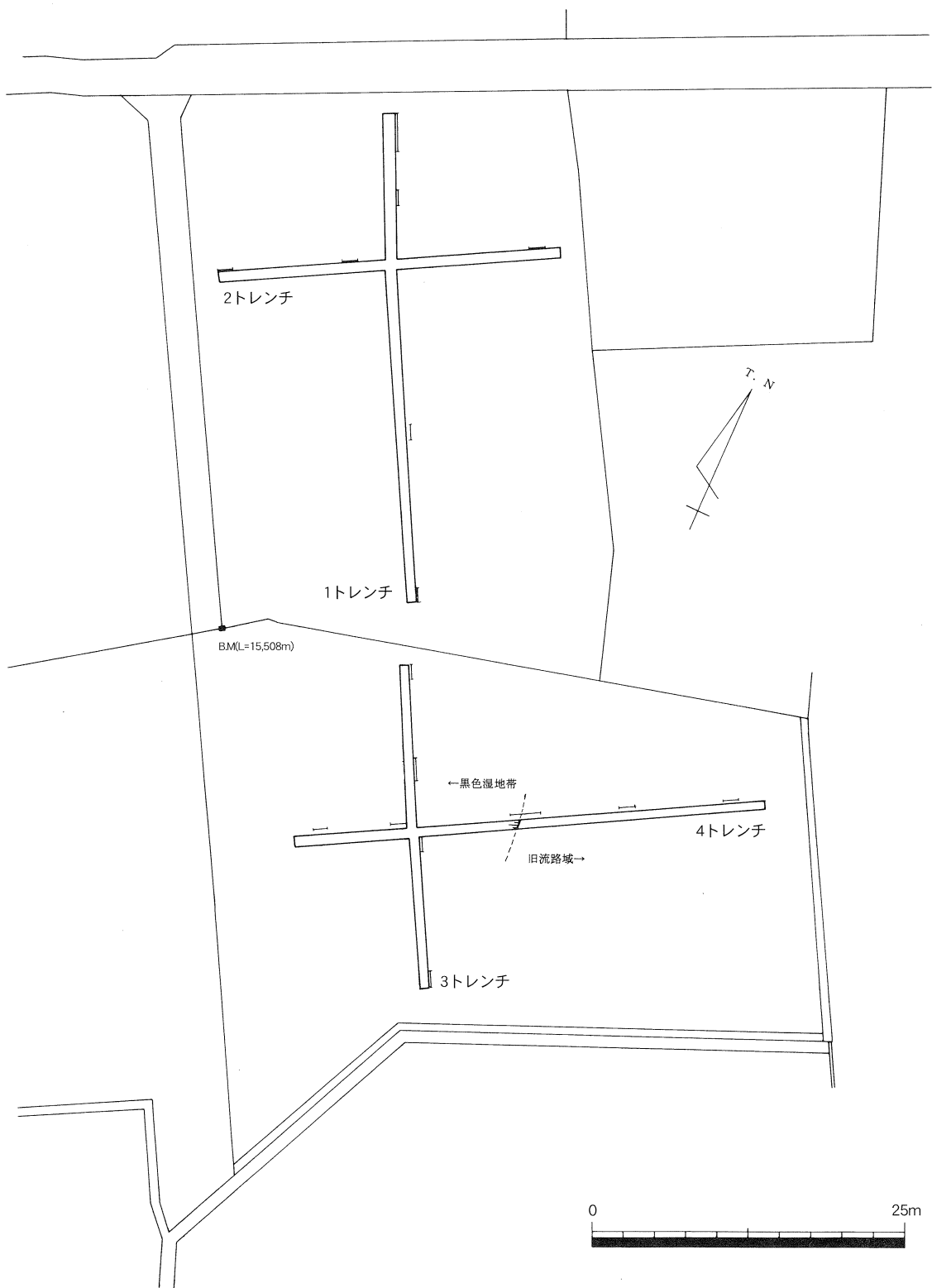


第24図 調査地位置図

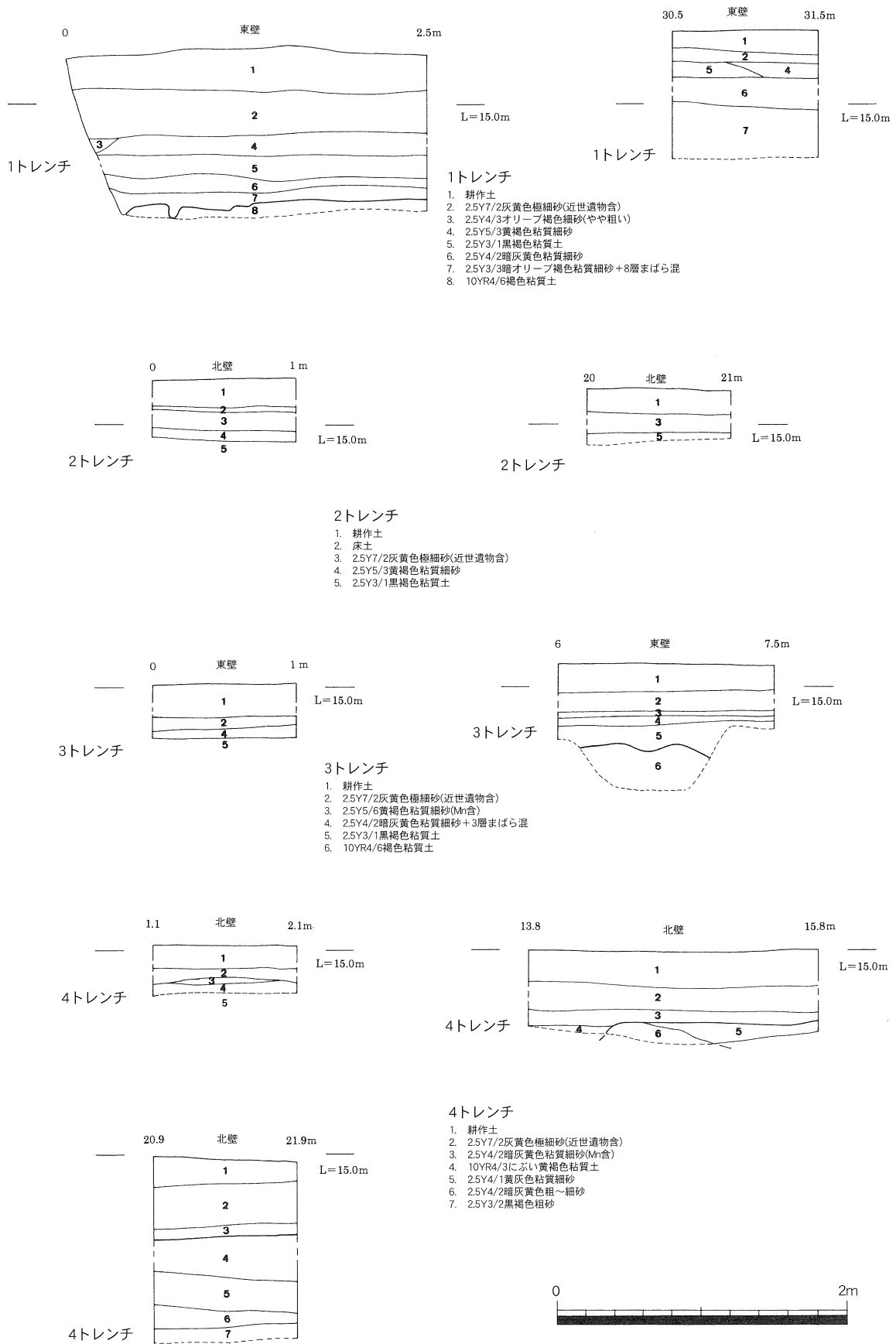
2. 調査に至る経緯

平成19年8月30日に宅地分譲開発の事業計画に伴い、埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについての照会文書が提出された。今回開発が計画された区域は、周辺に弥生時代の集落が所在し、これに伴う遺跡の展開する可能性が考えられることから、試掘調査を実施することとした。

調査は、平成19年9月12日～13日にかけて行った。トレンチ掘削は重機により実施し、人力作業によってトレンチ内を精査し、図面作成及び写真撮影を行った。



第 2 5 図 トレンチ配置図



第26図 トレンチ土層断面図

3. 調査の概要

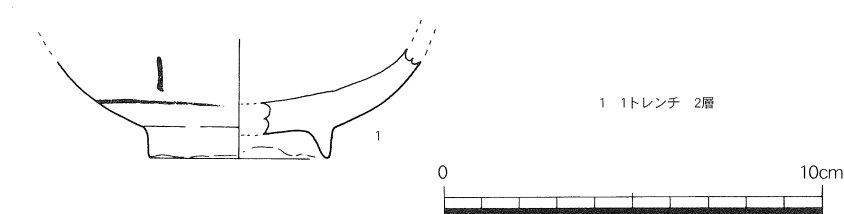
調査区域を2ブロックに分け、それぞれにトレンチを十字に設定した。計4本のトレンチによる調査とした。

調査の結果、全てのトレンチにおいて、耕作土直下に近世の包含層を確認し、さらに黒褐色粘質土層の広がる低湿地帯が存在していたことを確認した。そして、4トレンチでは黄灰色～黒褐色の細・粗砂の堆積している旧流路域が低湿地帯を取り巻くように広がっていることを確認した。下層域での遺構・遺物の検出はなかった。

【1 トレンチ】

地表面から約0.75m掘り下げたレベルから黒褐色粘質土が確認できた。弥生時代の包含層か、大型溝の可能性も考え、確認のためさらに掘り下げると、黒褐色粘質土層は0.1mの厚さで終わるが、南に広がっていくことがわかった。更に掘り下げると、表土上面より1.1m下のレベルで地山を確認した。

耕作土直下で遺物は見られるが、下層では遺物の出土はなかった。遺構も検出されなかった。図27-1は、肥前陶器碗の底部片である。内外面に5B6/1青灰色の釉がかかっている。



第27図 出土遺物実測図

【2 トレンチ】

1トレンチと同様の土層が確認でき、表土上面から約0.3～0.5m掘り下げたところで、黒褐色粘質土層を検出した。耕作土直下では磁器片が見られるが、下層では遺構・遺物共に認められない。

【3 トレンチ】

南側のブロックに南北軸で設定した。1・2トレンチ同様に、表土上面から0.3～0.4m下がったところで黒褐色粘質土層を検出した。トレンチ北端から6～7.5mのところで、地山と考えられる褐色粘質土を確認した。

地山面まで掘り下げて確認したが、遺構は検出できなかった。遺物も耕作土直下で微量に見られるのみで、下層では皆無であった。

【4 トレンチ】

トレンチ西側から重機により掘削を開始し、表土上面から0.3～0.4m掘り下げたレベルで地山と考えられるにぶい黄褐色粘質土層を検出した。トレンチ西端から1.8m付近で黄灰色粗砂を検出し、砂層が地山と考えられる層の下に入り込んでいくことから、2.0m過ぎから深掘りし、土壌堆積状況を確認した。

表土上面から0.8m掘り下げた面から黄灰色～黒褐色砂層が始まり更に0.7m以上砂層が続き、これ以上の重機による掘削作業が困難になったところで止めた。砂の堆積状況などから検討すると、1.8m過ぎたあたりから、東側に向かって旧流路域に伴う粗砂層が広がっている。遺構・遺物の検出はできなかった。

| トレンチ名 | 延長 (m) | 主な時代 | 主な遺構 | 出土遺物等 |
|--------|--------|------|------|--------|
| 1 トレンチ | 39.3 | 不明 | 無し | 陶器片 |
| 2 トレンチ | 27.5 | 不明 | 無し | 磁器片 |
| 3 トレンチ | 26.0 | 不明 | 無し | 土師質土器片 |
| 4 トレンチ | 37.8 | 不明 | 無し | 無し |

第6表 原田町字三分一地区試掘調査 トレンチ概要

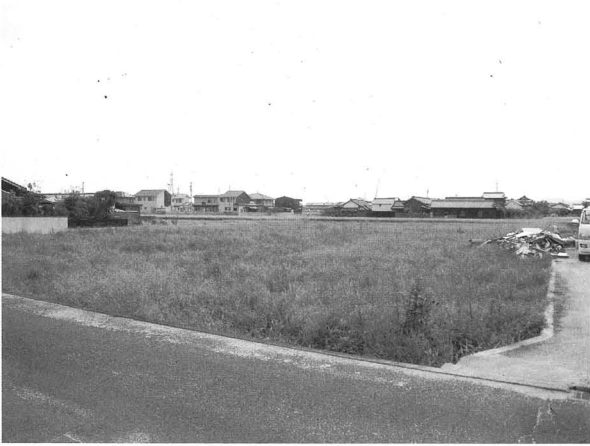
4. まとめ

今回の調査の結果、区域内において遺構を確認することはできなかった。耕作土直下で近世遺物を若干包含するが、下層とのつながりは見られない。

調査区南東部で旧流域の堆積層と考えられる粗砂層が確認され、西半部はその流域の中心部に位置する低湿地帯に位置するようである。

調査終了後、調査箇所は速やかに、重機によって埋め戻し現状に復した。

今回の調査結果をもとに香川県教育委員会と協議した結果、周知の埋蔵文化財包蔵地としては取り扱わないこととなった。



調査区全景：北西から



重機による掘削作業風景：北西から



1トレンチ北半部全景：南東から



1トレンチ全景：南東から



1トレンチ北端部深掘部：北西から

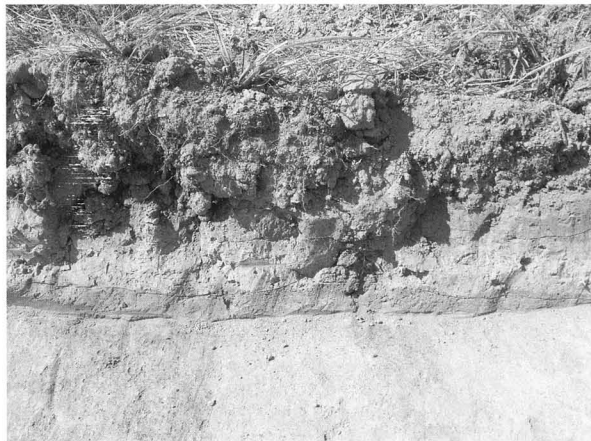


1トレンチ土層状況：西から

図版21 原田町字東三分一地区試掘調査（1）



2トレンチ全景：西から



2トレンチ土層状況：南から



3トレンチ全景：南東から



3トレンチ低湿地確認状況：西から



4トレンチ全景：東から



4トレンチ低湿地確認状況：南から

図版22 原田町字東三分一地区試掘調査（2）



第27図-1

綾歌町富熊字沖地区

第Ⅷ章 綾歌町富熊字沖地区試掘調査

| | |
|-------|------------------|
| 調査対象地 | 綾歌町富熊字沖866-5の一部 |
| 調査期間 | 平成19年9月18日 |
| 調査面積 | 約36.3㎡(トレンチ掘削面積) |

1. 立地と環境

対象地は丸亀平野南東部、中大東川右岸に位置する。中大東川以西は、洪積台地となり対象地との比高差は、20m以上となる。

調査地の西方に通る県道富熊宇多津線沿いで、『行末西遺跡』が確認されている。弥生時代前期～古墳時代初頭にかけての集落遺跡で南の『行末遺跡』、『佐古川遺跡』とともに拠点集落であったと考えられる遺跡が広がる。『行末西遺跡』、『佐古川遺跡』からは、縄文時代晩期の土器片も出土しており注目される。

2. 調査に至る経緯

平成19年6月19日付けで当該地における電気通信施設の建設に伴い埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについての照会文書が提出された。計画地は、周知の埋蔵文化財包蔵地『行末西遺跡』の北端付近に近接しており、検討した結果、関連する遺跡が展開している可能性が予想されることから試掘調査を実施することとした。田圃の作付け状況を考え、平成19年9月18日に調査を行った。調査区域内に十字のトレンチを設定し、掘削は重機、精査は人力によって実施した。調査終了後は、調査箇所は速やかに重機によって埋め戻し現状に復した。

3. 調査の概要

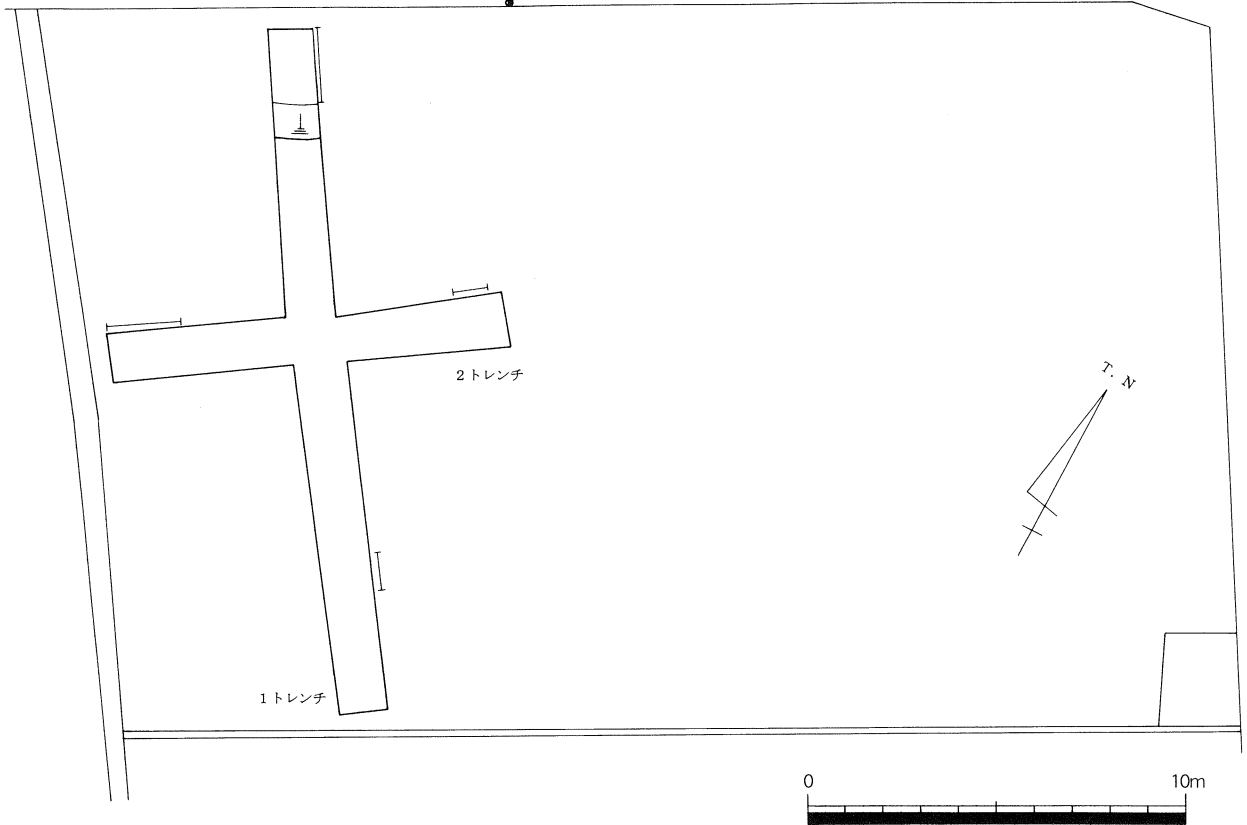
アンテナ建設予定地内に2ヶ所、十字に試掘トレンチを設定した。調査の結果、全体的に黄灰色系粘質土の薄い包含層を伴い、1点だけではあるが須恵器片が出土している。そして、深く黒色系粘質土層が広がりを見せ、この辺りは水分を多く含んだ層が広がっていることが確認できた。

以下、トレンチ毎に概要を記述する。

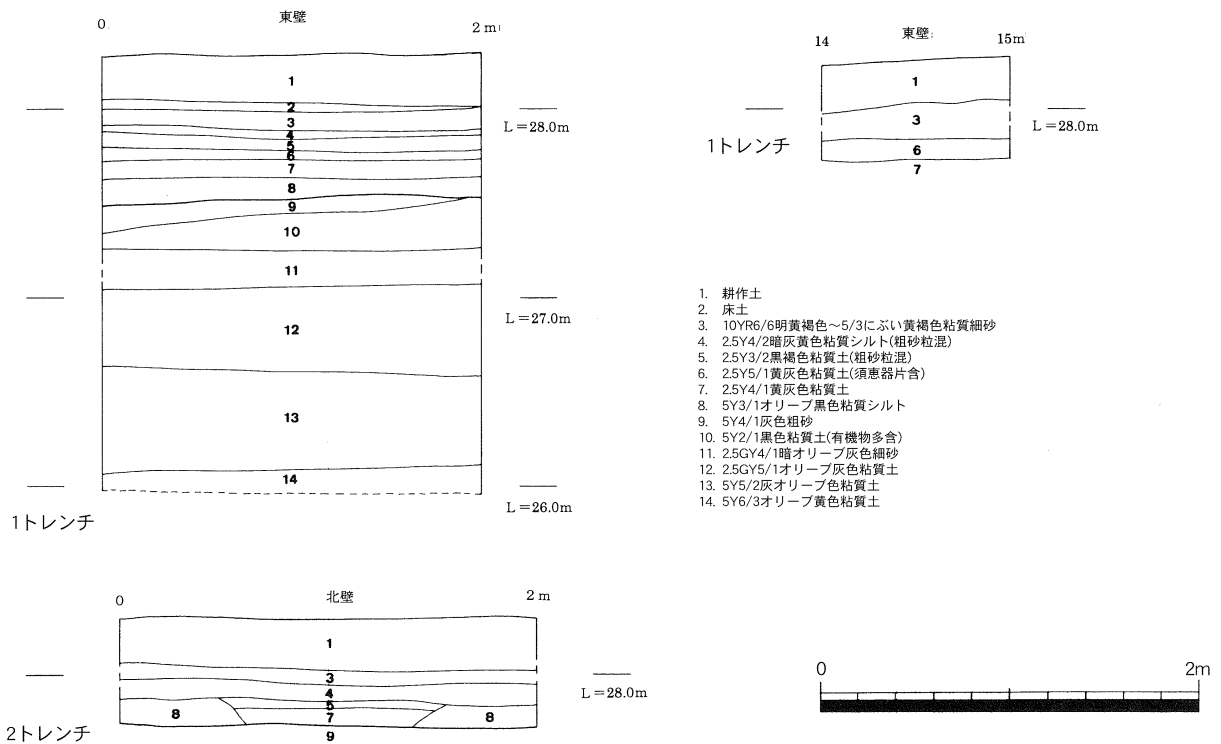


第28図 調査地位置図

B. M (L=28.469m)



第29図 トレンチ配置図



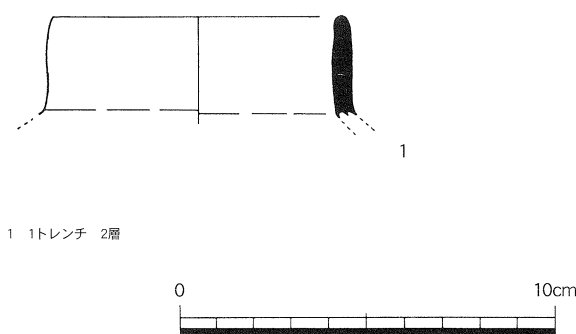
第30図 トレンチ土層断面図

【1トレンチ】

厚さ0.25mの表土を取り除くと、床土が敷かれている。その直下には0.1m厚の包含層が確認できた。この包含層からは、図31-1の須恵器の短頸壺口縁片が1点出土した。端部は内湾気味に納まる。6世紀中頃～後半の所産と考えられる。

包含層には黒褐色～灰色系の粘質土が0.35m厚で堆積しており『行末西遺跡』に伴う弥生時代の土壌堆積かと推測されたが黒褐色～灰色系粘質土の層が終わると一転して砂の層に変わった。砂層は0.25m厚の堆積を確認した。またさらに、オリーブ灰色系粘質土層が厚さ1.5m以上あるが、遺物の包含も遺構の検出も確認できなかった。表土直下から2.1m下がった地点で水が湧き出てきたので掘削作業を止めた。

これより、南側は砂層を検出したレベルで追いかけたが、遺構・遺物ともに検出できなかった。



第31図 出土遺物実測図

【2トレンチ】

1トレンチに交差して東西方向に設定した。1トレンチと同様の土壌堆積が確認でき、2トレンチも砂層を検出したレベルで重機掘削を止めた。遺構・遺物ともに検出できなかった

| トレンチ名 | 延長 (m) | 主な時代 | 主な遺構 | 出土遺物等 |
|-------|--------|------|------|-------------|
| 1トレンチ | 18.3 | 不明 | 無し | 須恵器片、土師質土器片 |
| 2トレンチ | 10.5 | 不明 | 無し | 無し |

第7表 綾歌町富熊字沖地区試掘調査 トレンチ概要

4. まとめ

今回の調査によって対象地には埋蔵文化財の包蔵が無いことが明らかになった。

しかし、今回の調査地では、周辺に分布をみせる弥生時代の『行末遺跡』や『行末西遺跡』の存在などから、この周辺において遺跡の埋蔵する可能性は高いものと考えられ、今後の開発事業に対しては注意を要するものと判断する。

今回の調査結果をもとに香川県教育委員会と協議した結果、周知の埋蔵文化財包蔵地としては取り扱わないこととなった。よって、当該地において保護措置は不要であり、文化財保護法の適用を受けないこととなった。



重機による掘削作業風景：北から



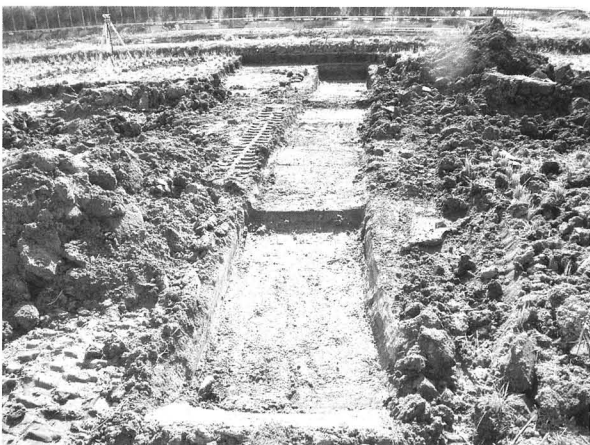
重機による埋め戻し作業風景：西から



1トレンチ全景：南から



1トレンチ土層状況：西から

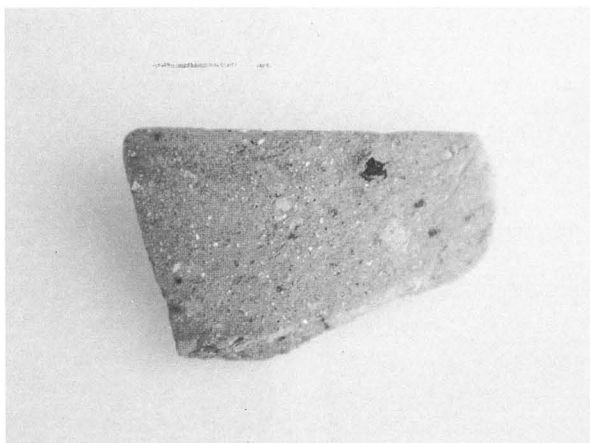


2トレンチ全景：西から



2トレンチ土層状況：南から

図版24 綾歌町富熊字沖地区試掘調査（1）



第31図-1

山北町字原窪地区

第Ⅸ章 山北町字原窪地区試掘調査

| | |
|-------|---|
| 調査対象地 | 山北町字原窪19-1、20-1、21、22-1、23、24-1、 24-2、31-1、31-2、32、33、34-4 |
| 調査期間 | 平成19年11月5日～11月7日 |
| 調査面積 | 約171.3㎡（トレンチ掘削面積） |

1. 立地と環境

調査地は、山北町字原窪地区を横断する国道11号線の南面、田村池の北面に位置する。

東の集落を隔てたところには旧金毘羅参詣丸亀道が南北に通る。調査地南の田村池南東半部に『田村池遺跡（弥生～古代：包含地）』が、北東にあたる国道11号線・県道204号線の交差する地点から北東一帯に『柞原町西村遺跡（古代：包含地）』が、東方の県道204号線を隔てたところには『柞原土居構城跡（中世：城館）』の所在が知られている。



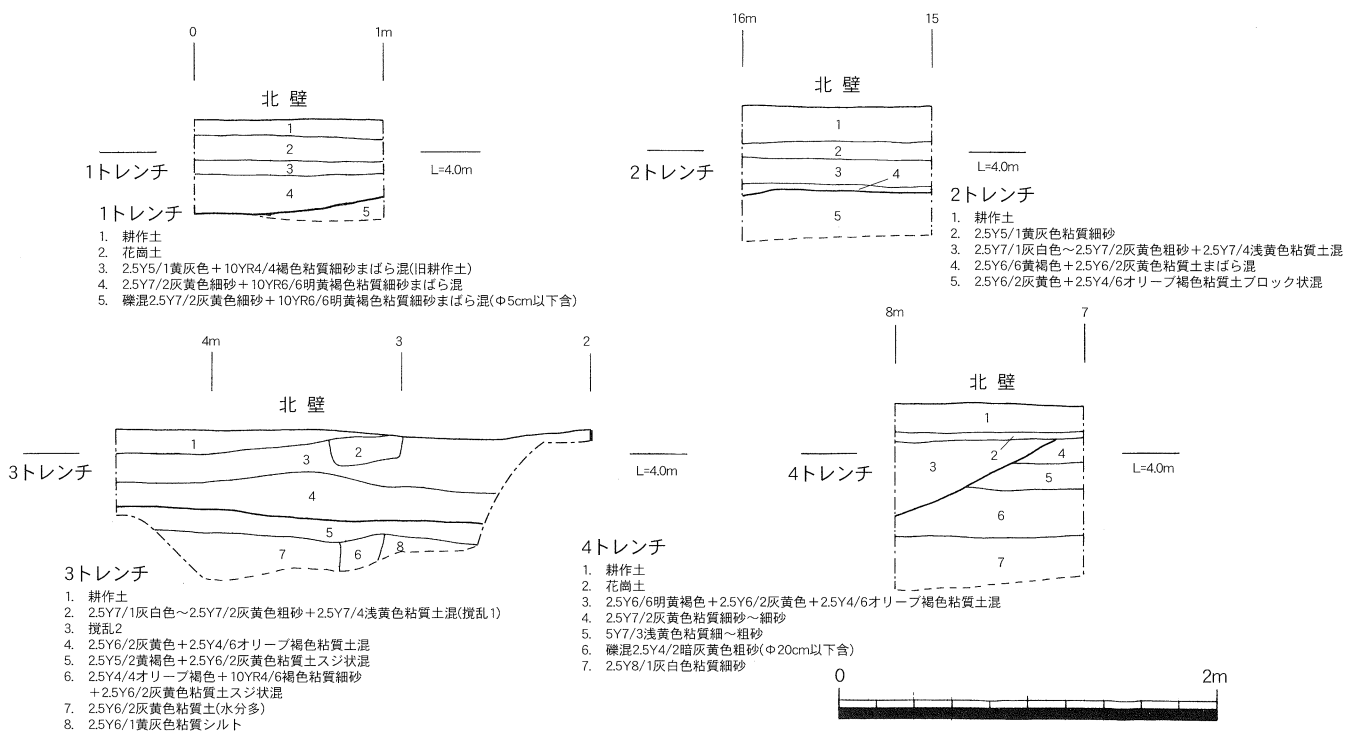
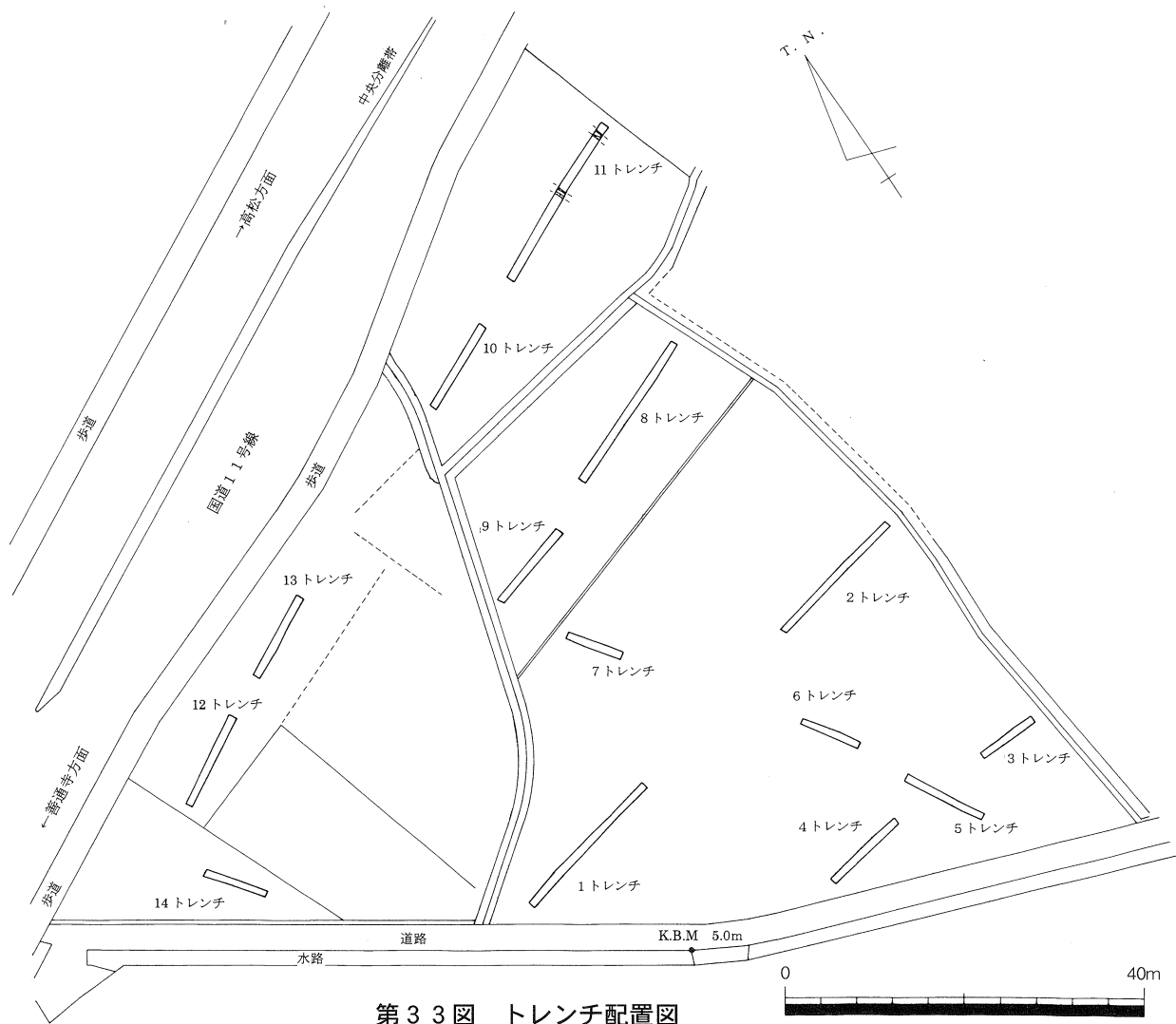
第32図 調査地位置図

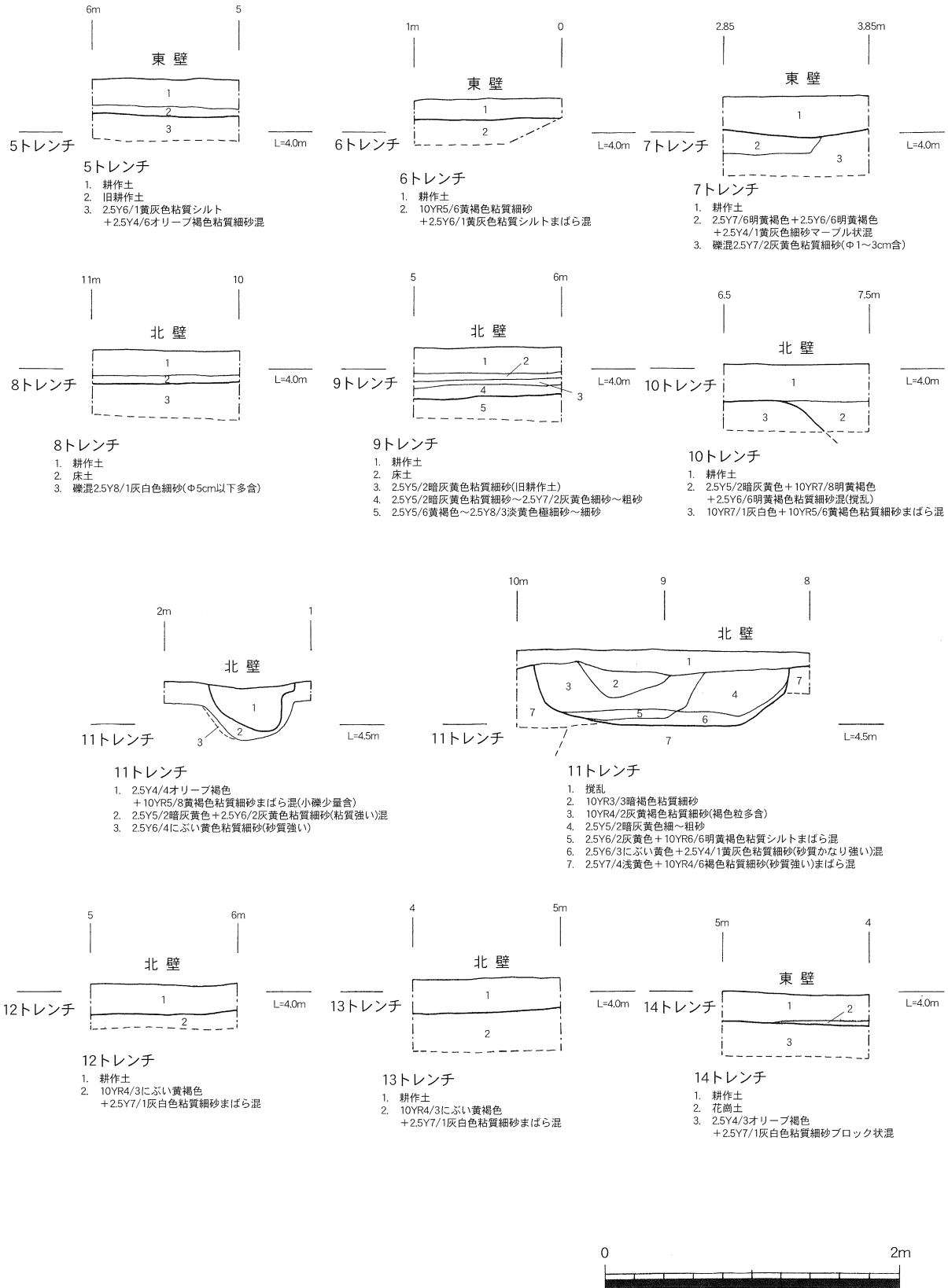
2. 調査に至る経緯

商業施設の建設計画に先立ち埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについての照会がなされた。調査対象地から国道11号線を挟んだ北側で、昨年度に埋蔵文化財の試掘調査を実施しているが、既に相当な削平を受けているようで、密度の薄い溝状遺構を僅かに確認できるのみであり、この区域の本来の状況は未確認であった。

上記の調査結果や周辺の遺跡分布状況から考えると、田村池から北東方向にやや安定した微高地が延びていた可能性がある。そこで当該地が同一線上にあることから関連する遺跡が展開していることが予想された。そこで、試掘調査を実施することとした。

掘削は、重機により行い、精査は人力で行った。記録は、トレンチ配置図・遺構平面図・土層断面図の作成及び写真撮影で実施した。





第35図 トレンチ土層断面図(2)

3. 調査の概要

試掘トレンチは、開発計画地内に14本を設定した。雑草の繁茂が激しく、時間等の制約によって未調査部分をのこしたが、ほぼ全域に渡る調査が実施できた。

調査の結果、現在の水田が整備される前の段階の水田が認められる部分もあるが、大部分が削平によって本来の地表面を消失していることが明らかになった。

調査地北東の端に位置する区域で溝状の落ちを2箇所検出した。SD01は耕作土直下から、SD02は耕作土下の攪乱層直下からの掘り込みであり、包含層等持たないことから現代の掘削によるものの可能性も否定できない。

遺物は、調査全体を通じて少量の土師質土器片と磁器片が出土しているが、いずれも耕作土中等からの発見であり、遺構を伴うものは無い。

【1 トレンチ】

以前工事に伴う仮設資材置場等に利用されていたようで花崗土敷きが厚くトレンチの西端から中央付近まで残存している。花崗土下には、整地土層があり攪乱土坑が認められる。その下層には灰黄色系の粘質土で遺構・遺物共に認められなかった。わずかに旧耕作土中で土師質土器片が出土したのみである。

【2 トレンチ】

整地土直下で褐色系の粘質土が堆積するが、その下面に起伏は見られるが遺構に伴うものとは考えられない。東に向かうに連れて礫を多く含む層にかわる。地盤を形成する礫層と考えられる。遺構・遺物共に認められなかった。

【3 トレンチ】

耕作土中に磁器片が少量見られ、直下で攪乱土層が認められる。その下層は灰黄色系の粘質土が堆積する。深い部分は褐色が強くなる。遺構・遺物共に認められなかった。

【4 トレンチ】

耕作土中に磁器片が包含されるが、遺構とは結びつかない。耕作土直下で仮設の花崗土が薄く見られる。その下層で西に下る落ちが見られるが、単層であり攪乱に伴う整地土の可能性が高い。ベース層は、灰黄色系の粘質土である。遺物・遺構共に認められなかった。

【5 トレンチ】

整地土直下で灰黄色系の粘質土が堆積する。遺構・遺物共に認められなかった。

【6 トレンチ】

耕作土直下でベース層と考えられる黄褐色粘質土を確認した。遺構・遺物共に認められなかった。

【7 トレンチ】

耕作土直下で黄褐色土層が見られるが、締りがないことから最近の整地土である可能性が高い。その下層は、灰黄色系の粘質土である。遺構・遺物共に認められなかった。

【8 トレンチ】

整地土直下は、礫を多く含む灰白色砂層が堆積する。地盤を形成する礫層と考えられる。遺構・遺物共に認められなかった。

【9トレンチ】

整地土直下で攪乱層を確認。すぐ西に水路が設置されていることから工事掘削を受けているものと考えられる。東端に向かうに連れて整地土直下には灰黄色系の粘質土が堆積するが遺物・遺構共に認められなかった。ベース層と考えられる。

【10トレンチ】

耕作土直下で黄褐色系の粘質土がみられ、ベース層と考えられる。遺構・遺物共に認められなかった。

【11トレンチ】

耕作土直下で南北軸の溝状の落ちを検出（SD01）した。埋土には黄褐色系の粘質土を持つが遺物は認められない。灰黄色系の粘質土が取り巻くが、その状況から整地に伴うものである可能性も考えられる。東端付近では、耕作土直下で攪乱層が見られ、その下で天幅1.7mを測る南北軸の溝状の落ちを検出（SD02）した。埋土には、中央上層に暗褐色粘質土を持つが、それ以外はベース層のものと大差ない。遺物は包含しない。

【12トレンチ・13トレンチ】

耕作土直下でベース層が認められる。遺物・遺構共に認められなかった。

【14トレンチ】

耕作土直下で仮設の花崗土が薄く見られる。その下層にはベース層が認められる。遺物・遺構共に認められなかった。

| トレンチ名 | 延長 (m) | 主な時代 | 主な遺構 | 出土遺物等 |
|--------|--------|------|------|-------|
| 1トレンチ | 18.2 | 不明 | 無し | 土師器片 |
| 2トレンチ | 16.8 | 不明 | 無し | 無し |
| 3トレンチ | 7.0 | 不明 | 無し | 磁器片 |
| 4トレンチ | 9.8 | 不明 | 無し | 磁器片 |
| 5トレンチ | 9.5 | 不明 | 無し | 無し |
| 6トレンチ | 24.5 | 不明 | 無し | 無し |
| 7トレンチ | 6.8 | 不明 | 無し | 無し |
| 8トレンチ | 10.3 | 不明 | 無し | 無し |
| 9トレンチ | 18.5 | 不明 | 無し | 無し |
| 10トレンチ | 10.7 | 不明 | 無し | 無し |
| 11トレンチ | 20.5 | 溝2条 | 無し | 無し |
| 12トレンチ | 11.0 | 不明 | 無し | 無し |
| 13トレンチ | 10.2 | 不明 | 無し | 無し |
| 14トレンチ | 7.2 | 不明 | 無し | 無し |

第8表 山北町字原窪地区試掘調査 トレンチ概要

4. まとめ

今回の調査では、調査区域の北東隅で2条の溝状の落ちを検出したのみで、残りの範囲では耕作土中等で微量の遺物を発見したものの遺構は皆無であった。ベース層の上に包含層などの堆積層も認められないことから既に削平を受けているものと考えられる。

検出した2条の溝状の落ちも遺物を包含しないことなどから遺構と特定し難い状況は拭えないことなどから保護措置は不要であると考えられる。

上記内容にて香川県教育委員会との協議した結果、当該地については埋蔵文化財包蔵地としての取り扱いはしないこととした。よって、照会のあった区域については、文化財保護法の適用を受けないこととなった。



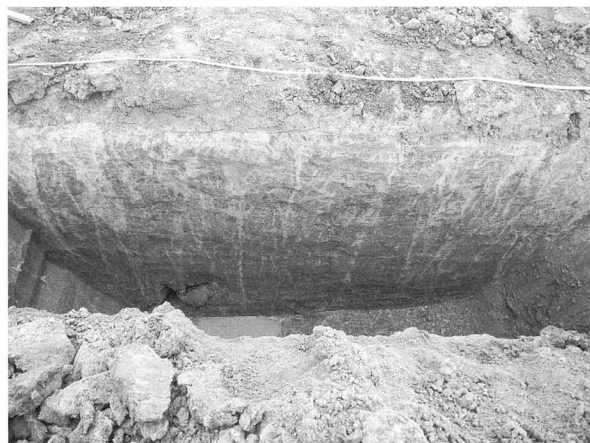
調査区全景：北東から



重機による掘削作業風景：西から



1トレンチ全景：東から



1トレンチ土層状況：南から



2トレンチ全景：東から



2トレンチ土層状況：南から

図版26 山北町字原窪地区試掘調査（1）



3トレンチ全景：東から



3トレンチ土層状況：南から



4トレンチ全景：東から



4トレンチ土層状況：南から



5トレンチ全景：南から

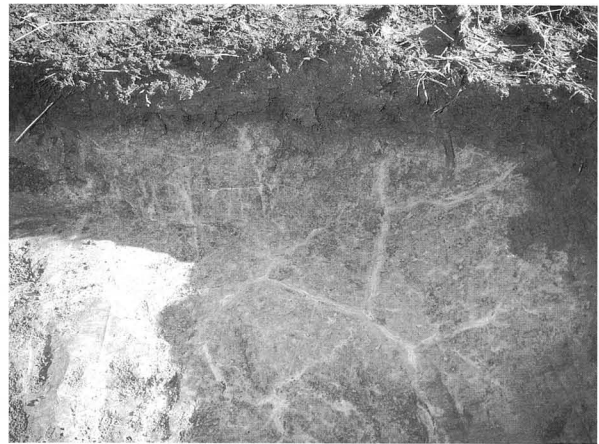


5トレンチ土層状況：西から

図版27 山北町字原窪地区試掘調査（2）



6トレンチ全景：北から



6トレンチ土層状況：西から



7トレンチ全景：北から



7トレンチ土層状況：西から



8トレンチ全景：西から



8トレンチ土層状況：南から

図版28 山北町字原窪地区試掘調査（3）



9トレンチ全景：東から



9トレンチ土層状況：南から



10トレンチ全景：東から



10トレンチ土層状況：南から

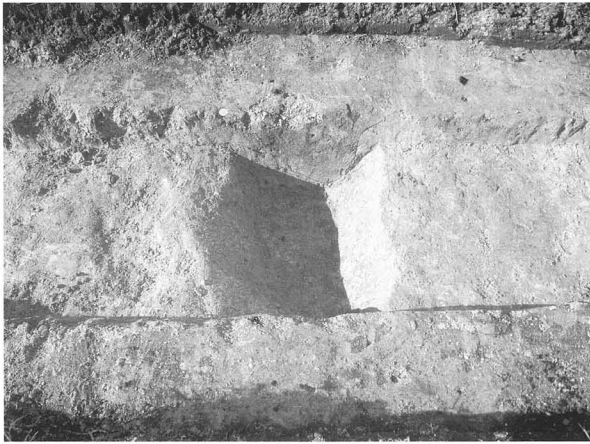


11トレンチ全景：西から



11トレンチSD01検出状況：南から

図版29 山北町字原窪地区試掘調査（4）



11トレンチSD01完掘：南から



11トレンチSD02断面：南から



12トレンチ全景：東から



12トレンチ土層状況：南から



13トレンチ全景：東から



13トレンチ土層状況：南から



14トレンチ全景：北から



14トレンチ土層状況：西から



重機による埋め戻し作業風景：東から



埋め戻し状況：南から

郡家町字大林上地区
【郡家田代遺跡】

第Ⅹ章 郡家町字大林上地区試掘調査

【郡家田代遺跡】

調査対象地 郡家町字大林上 3427-4、3428-1、3428-3、
3429-1、3430、3431
調査期間 平成11月8日～11月12日
調査面積約 195.8㎡（トレンチ掘削面積）

1. 立地と環境

調査地は、丸亀平野を形成する中心である土器川の西方1.2km、高松自動車道と県道18号線に挟まれた地域に位置する。

北側の高松自動車道のところには『郡家田代遺跡（旧石器～古代：集落）』、『川西北原遺跡（中世～近世：包含地）』がある。

南方500m程のところには、『領家遺跡（古墳：包含地）』の所在が知られている。

このように、この付近には既に周知されている遺跡も多く、『郡家』という地名からも注目を浴びている区域でもある。



第36図 調査地位置図

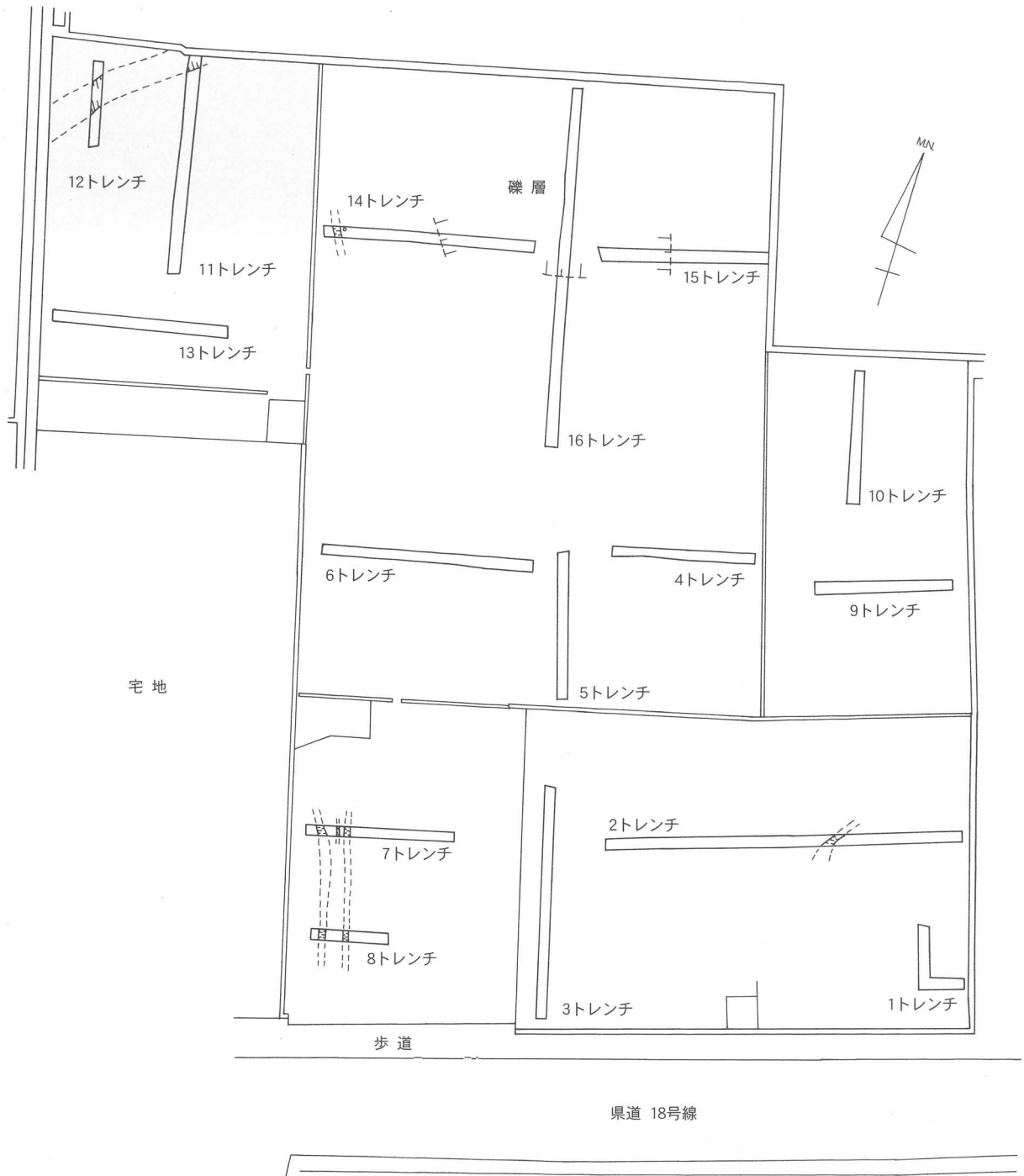
2. 調査に至る経緯

本調査は、郡家町字大林上地区で計画された開発に伴い、埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについての照会文書が提出されたことに起因し実施したものである。

調査地に隣接する区域では、これまでに調査実績がないことから遺跡の分布状況は不明であったが、周辺の遺跡分布状況から考えると、遺跡の所在が十分に期待できる地域であることから、事前調査を実施することとした。

今回照会のあった地区内に16ヶ所のトレンチを設定して調査を実施した。

掘削は、重機により行い、精査は人力で行った。記録は、トレンチ配置図・遺構平面図・土層断面図の作成及び写真撮影で実施した。



遺跡指定範囲



第37図 トレンチ配置図